

ミネベアミツミグループ  
CSRレポート 2019

**MinebeaMitsumi**  
Passion to Create Value through *Difference*



MinebeaMitsumi Group  
CSR REPORT 2019

## 目次

目次・編集方針・会社概要	1
トップコミットメント	3
社会の中でのミネベアミツミ製品	5

**特集1** マテリアリティの特定 ..... 7

**特集2** 進化し続けるセブミツミ  
 ～フィリピン セブミツミでの取り組み～ ..... 9

## HOT TOPICS

ミネベアミツミグループの人材育成	13
------------------	----

## マネジメント報告

CSR推進活動の目標と実績	15
ミネベアミツミグループのCSR	17
コンプライアンス	19
リスクマネジメント	20

## 社会性報告

お客様とのかかわり	21
従業員とのかかわり	23
お取引先様とのかかわり	26
地域社会・国際社会とのかかわり	27
株主の皆様とのかかわり	29

## 環境報告

環境マネジメント	30
地球温暖化防止の取り組み	32
資源の有効活用の取り組み	33
環境負荷物質削減の取り組み	34
製品における環境への取り組み	35
第三者意見	36

## 編集方針

本レポートはミネベアミツミグループとして、ステークホルダーの皆様にご覧いただくことを目的に制作しています。2018年度レポートでは、当社グループが重点的に取り組むマテリアリティ(重要課題)を特定し、特集記事でご紹介しています。さらに、事業活動を行う周辺地域とのコミュニケーション事例として、当社グループの主力生産拠点の一つである、フィリピンにあるセブミツミでの取り組みについてご紹介しています。

また、続く「マネジメント報告」「社会性報告」「環境報告」のページでは、CSR目標に対する取り組みの進捗状況を報告しています。

CSRレポートの発行は、読者であるステークホルダーの皆様とのコミュニケーションの一つであると考え、適切で分かりやすい報告を心掛けています。当社グループのCSR活動について率直なご意見、ご感想をお聞かせいただければ幸いです。なお、別途統合報告書を刊行していますので、財務およびコーポレートガバナンスなどについては「ミネベアミツミグループ統合報告書2019」をご覧ください。

## 報告書の対象範囲

ミネベアミツミおよびグループ会社：95社

## 報告書の対象期間

2019年3月期(2018年4月1日～2019年3月31日)

ただし、上記期間以前や2019年度の活動も一部含まれています。

## 発行情報

2019年9月発行(前回：2018年9月発行)(次回：2020年9月発行予定)

## 参考にしたガイドライン

一般財団法人日本規格協会「ISO26000:2010」  
 GRI「サステナビリティ・レポート・スタンダード」  
 環境省「環境報告ガイドライン(2018年版)」

## 報告書に関するお問い合わせ

ミネベアミツミ株式会社 サステナビリティ推進部門

CSR推進室

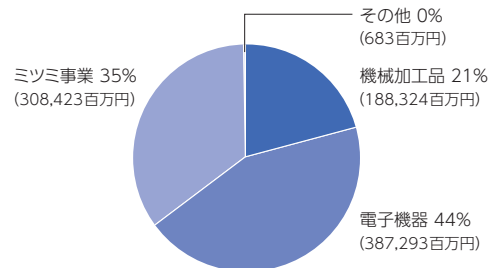
TEL: 03-6758-6724

## 会社概要 (2019年3月末時点)

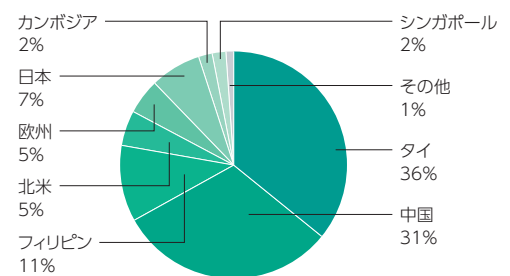
社名	ミネベアミツミ株式会社 (MinebeaMitsumi Inc.)
本社所在地	〒389-0293 長野県北佐久郡御代田町 大字御代田4106-73 TEL: 0267-32-2200
東京本部所在地	〒108-8330 東京都港区三田3-9-6 TEL: 03-6758-6711
設立年月日	1951年7月16日
資本金	68,258百万円
代表者	代表取締役 会長兼社長執行役員 員沼 由久 (かいぬま よしひさ)
事業内容	機械加工品事業、電子機器事業、自動車部品・産業機械・住宅機器事業など
売上高	連結：884,723百万円
営業利益	連結：72,033百万円
親会社の所有者に 帰属する当期利益	連結：60,142百万円
従業員数	連結：77,957名
連結子会社数	121社*

\*株式会社ユーシンを含む(2019年6月末現在)

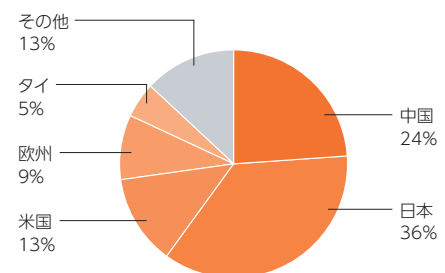
## 事業別売上高 (2018年度)



## 地域別生産高 (2018年度)



## 地域別売上高 (2018年度)



## CSRウェブサイト掲載情報 <https://www.minebeamitsumi.com/corp/environment/>

ミネベアミツミグループウェブサイトでは、コーポレートガバナンス情報や冊子に掲載しきれなかったより詳細な情報と、最新の活動報告についても随時公開しています。また、投資家向けの情報も掲載していますので、併せてご覧いただければ幸いです。

▶ 投資家向け情報

▶ CSRレポート2019詳細情報

▶ 最新CSR活動情報

▶ コーポレートガバナンス情報



## 次の10年に向けて—— 世界最強の「相合」精密部品メーカーを目指す

2018年度は、売上高、営業利益、当期利益において過去最高を更新し、今期は「売上高1兆円」の達成が視野に入ってきてまいりました。

代表取締役役に就任してからの10年、さまざまな技術を「相合(=相い合わせる)」することで、世界に二つとない独自の企業をつくろうと努力してきました。結果として、この10年で売上高3.5倍、営業利益5.4倍と、めざましい成長を遂げただけでなく、ポートフォリオの再構築を行ったことで、次の10年への基礎固めができたと考えています。

ここから次の10年は、持続可能な成長を遂げるためにも、社会から常に必要とされる製品をどう生み出していくかが大きな課題になります。

まず、祖業であるベアリングや、モーターをはじめとする主力事業で圧倒的なシェアを獲得し、収益力の向上を引き続き進めるとともに、既に持っている高い技術をベースに多角化を推し進めていきます。2019年度には自動車部品メーカーのユーシンがグループの一員となったことで、当社の事業に新たに「アクセス製品」が加わりました。これまでコア事業として掲げてきた「ミネベアミツミ7本槍」をさらに広げ、「新8本槍」として拡大していきます。

また、「超精密機械加工技術」等の当社コア技術と、「新8本槍」製品を相合することで、医療、インフラ、住宅機器等の新分野でのシナジーを創出し、新市場を開拓していきます。これによってニッチマーケットを中心に世界最強の「相合」精密部品メーカーを目指したいと考えています。

また、グループの拡大が続く中、従業員との間で基本的な価値観を共有することがますます重要になっています。社是でありサステナビリティについての基本的な考えである「五つの心得」を、業務の中で常にしっかりと意識することがその第一歩です。

そのために、2019年度はサステナビリティ推進部門を新設するとともに、マテリアリティ(重要課題)を特定しました。「社会の発展に貢献する価値の創造」「すべての従業員が力を最大限発揮できる環境づくり」「社会を支える精密部品の安定供給」という3つの重要テーマの下、10の課題をマテリアリティとして定めています(詳細は本レポートP.7をご覧ください)。



ミネベアミツミ株式会社  
代表取締役 会長兼社長執行役員

## 具沼由久

これからも「よりよき品を、より早く、より安く、より多く、そして賢く」という「真摯なものづくり」を実践することで、企業として持続的な発展につなげてまいります。この実践の積み重ねを通じて、次の10年もさらに社会から必要とされる存在として発展していきたいと考えています。

## 社会の発展に貢献する価値を創造する

企業が長期的に発展していくためには、マテリアリティの重要テーマとしても掲げた「社会の発展に貢献する価値の創造」を継続していくことが不可欠です。そのためにも、当社のコア事業である「新8本槍」において、「相合」によるシナジーを積極的に生み出していかなければなりません。

そのようなシナジーから生まれてきた製品の中でも、「新製品三羽鳥」として特に力を入れてきた「スマートLED照明 SALIOT(サリオ)」「スマートシティソリューション」「ベッドセンサーシステム<sup>®\*</sup>」は、いずれも堅調に売上を伸ばしています。特に「スマートシティソリューション」については、販路が拡大しただけではなく、住宅機器事業も手掛けるユーシン

が加わったことで、「スマートハウス構想」とその領域を拡大することも可能になりました。

さらに2019年度は、こうした環境貢献機能を有する製品を「ミネベアミツミグリーンプロダクツ」として認定し、開発・販売を推進するための制度を制定しました。今後ますます社会の発展に貢献してまいります。

※ベッドセンサーシステムはミネベアミツミ株式会社の登録商標です

## サステナブルな事業運営に向けて

また、ほかのマテリアリティの重要テーマである「すべての従業員が力を最大限発揮できる環境づくり」「社会を支える精密部品の安定供給」については、事業と社会、双方の持続可能性を考え、必ず乗り越えなくてはならない課題です。

特に、従業員なくして企業は存在し得ないという意味で、従業員一人ひとりに最大限に力を発揮してもらうことが最も重要と考えます。さまざまな国、文化的背景をもつ従業員がいる環境の中で、当社グループの一員として同じ企業文化、情熱、プライオリティをもって動ける人材育成の仕組みと、多様な人材が活躍できる風土づくりに注力しています。

また、経営理念を共有するマネジメント層を一人でも多く増やしていくため、次世代リーダーの育成には特に力を入れています。これは日本人従業員に限った話ではなく、海外拠

点からグループ全体を担えるリーダーを育成することも重要です。タイ・中国をはじめ各国で現地リーダー育成のための取り組みも強化しています。

## 情熱で次の未来を開く

冒頭で申し上げましたように、当社グループは次の成長段階に入ろうとしています。会社の規模が大きくなっても、当社グループの力、スピード、未来を形づくるのは「情熱」であるという私の考えに変わりはありません。従業員一人ひとりが自ら高い目標を掲げ、それを達成していくことで、コーポレート・スローガン「Passion to Create Value through Difference」(常識を超えた「違い」による新しい価値の創造)を実現していきます。そして、高い目標に果敢に挑戦する「Passion(情熱)」を共有する組織をつくり、グループ全社一丸となれば、売上高2.5兆円・営業利益2,500億円の達成は可能であると考えています。

本レポートでは、当社グループがいま取り組んでいる事業活動とCSR活動について、多彩な角度から詳しく紹介しています。多くの皆様からご意見を頂戴して今後の企業活動に反映させていきたいと考えていますので、どうぞ忌憚のないご意見をお寄せください。

**ミネベアミツミ**

## 「新8本槍」戦略

当社グループの強みが生かせる、相合力を使える、ベアリング、モーター、センサー、コネクタ／スイッチ、電源、無線／通信／ソフトウェア、アナログ半導体を7本槍戦略として事業の中核としてきました。新たにユーシンが保有するドアハンドル／ドアラッチ等のアクセス製品を加えた新8本槍を中心とする多角化経営により、持続的な成長をはかります。

- 1 ベアリング
- 2 モーター
- 3 アクセス製品
- 4 センサー
- 5 コネクタ／スイッチ
- 6 電源
- 7 無線／通信／ソフトウェア
- 8 アナログ半導体







# 社会の中のミネベアミツミ製品

## スマートシティ・インフラ Smart City & Infrastructure

- |                                      |   |  |   |
|--------------------------------------|---|--|---|
| ソーラー発電<br>Solar Power Generators     |  | スマートライティング<br>Smart Lighting Devices   |  |
| 風力発電<br>Wind Power Generators        |  | スマート道路灯<br>Smart Street Lights         |  |
| 蓄電池モジュール<br>Battery Modules          |  | 駐車場<br>Parking Sensors                 |  |
| スマートメーター・バルブ<br>Smart Meters / Bulbs |  | セキュリティカメラ<br>Security Cameras          |  |
| スマートロック<br>Smart Locks               |  | エレベータ・エスカレータ<br>Elevators / Escalators |  |
| 自動改札機<br>Automatic ticket gates      |  | EV 充電スタンド<br>EV Charging Stations      |  |

## インダストリー Industry

- |   |   |
|---|---|
| 産業機械<br>Industrial Machinery                  |  |
| 産業用測定機器<br>Industrial Measurement Instruments |  |
| ATM<br>ATMs                                   |  |
| POS<br>POS Terminals                          |  |



## メディカル・ヘルスケア Medical & Health Care

- |   |   |
|---|---|
| CTスキャナ・X線検査装置<br>CT Scanners / X-ray Machines |  |
| デンタルハンドピース<br>Dental Handpieces               |  |
| 医療用輸液ポンプ<br>Medical Infusion Pumps            |  |
| 検体検査装置<br>Laboratory Equipments               |  |
| 介護・見守り関連機器<br>Nursing Care Products           |  |
| 体重計<br>Bathroom Scales                        |  |
| 血圧計<br>Blood Pressure Monitors                |  |
| 血液浄化装置<br>Blood Purification Machines         |  |
| アルコールチェッカー<br>Alcohol Breath Testers          |  |




## ロボット Robotics

- |                                       |   |
|---------------------------------------|---|
| ドローン<br>Drones                        |  |
| コミュニケーションロボット<br>Communication Robots |  |
| 協調型ロボット<br>Cooperative Robots         |  |
| 手術ロボット<br>Surgical Robots             |  |
| 産業ロボット<br>Industrial Robots           |  |

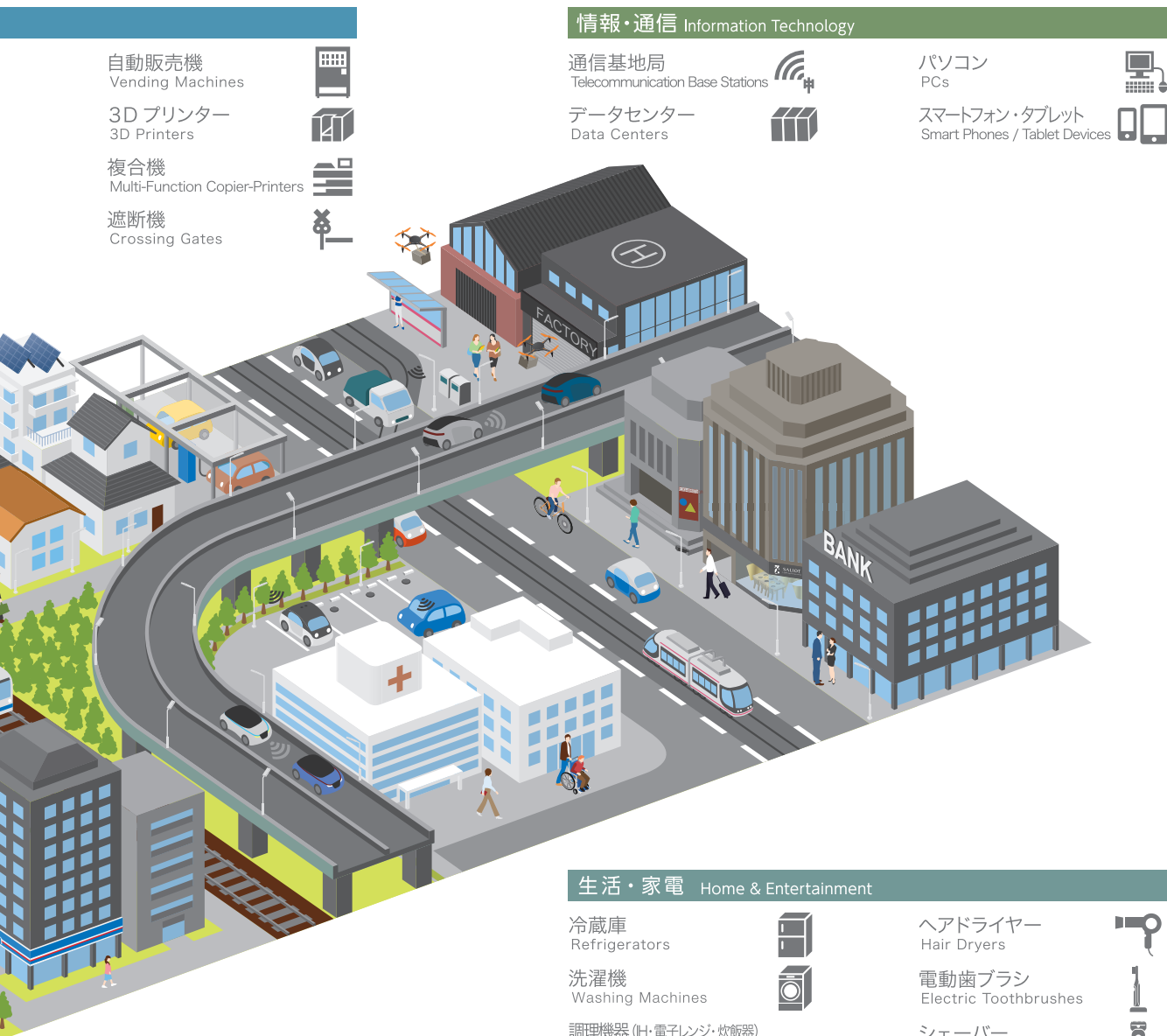
## 航空・宇宙 Aviation & Space

- |  |   |
|--|---|
| 航空機<br>Aircraft                        |  |
| 人工衛星・宇宙探査機<br>Satellites / Space Craft |  |

## 移動手段 Transportation

- |                          |   |
|--------------------------|---|
| 自動車<br>Automobiles       |  |
| EV<br>Electric Vehicles  |  |
| E-bike<br>Electric Bikes |  |

わたしたちが製造するボールベアリングやモーター、電子機器は、さまざまな最終製品に組み込まれ、人々の生活を支え、豊かな社会の実現に貢献しています。  
このページでは、普段は目にする事の少ないわたしたちの製品が、社会の中でどのように役立っているかを紹介します。



情報・通信 Information Technology

- 自動販売機  
Vending Machines
- 3Dプリンター  
3D Printers
- 複合機  
Multi-Function Copier-Printers
- 遮断機  
Crossing Gates

- 通信基地局  
Telecommunication Base Stations
- データセンター  
Data Centers

- パソコン  
PCs
- スマートフォン・タブレット  
Smart Phones / Tablet Devices

生活・家電 Home & Entertainment

- 冷蔵庫  
Refrigerators
- 洗濯機  
Washing Machines
- 調理機器 (IH・電子レンジ・炊飯器)  
Cooking Appliances (Induction Cooker / Microwaves / Rice Cooker)
- 掃除機  
Vacuum Cleaners
- エアコン  
Air Conditioners
- 扇風機  
Electric Fans
- 空気清浄機・加湿器・除湿器  
Air Cleaners / Humidifiers / Dehumidifiers
- 温水洗浄便座  
Bidets
- テレビ  
Televisions
- セットトップボックス  
Set Top Boxes
- DVD・BD  
DVD / Blu-ray Disc Players
- デジタルカメラ・アクションカメラ  
Digital Cameras / Action Cameras

- ヘアドライヤー  
Hair Dryers
- 電動歯ブラシ  
Electric Toothbrushes
- シェーバー  
Shavers
- フィットネス機器  
Fitness Equipment
- 美顔器  
Facial Equipment
- 玩具  
Toys
- ゲーム機器  
Game Devices
- バーチャルリアリティ機器  
VR Equipment
- 自動翻訳機  
Automatic Translation Devices
- 電動工具  
Power Tools
- 釣具  
Fishing Equipment
- スーツケース  
Suitcases

- ロケット  
Space Rockets

- 鉄道車両  
Trains
- 船舶・モーターボート・ウォーターバイク  
Ships / Motor Boats / Water Bikes
- トラム・ライトレール  
Trams / Light Rails

# マテリアリティの特定

ミネベアミツミグループでは、2019年5月にサステナビリティに関するマテリアリティ(重要課題)を特定しました。特定したマテリアリティとそのプロセスをご紹介します。

ミネベアミツミグループは、グローバル企業としての社会的責任を果たすとともに、経営の持続可能性を高めるために、2019年度にサステナビリティ推進部門を設置したと併せて、当社グループが重点的に取り組むサステナビリティ

課題としてマテリアリティを特定しました。今後、本マテリアリティについてPDCAサイクルを適切に回し、取り組みを一層推進していきます。

## 特定プロセス

### Step 1

#### 評価対象となる項目の整理

国際的なCSR/ESGに関する枠組みであるGRIスタンダード、持続可能な開発目標(SDGs)、ISO26000、米国サステナブル会計基準審議会(SASB)と、当社グループのビジネスモデルを参考に、重要課題の候補となる20の項目を整理。

### Step 2

#### 重要性の評価

整理された20の項目に対し、重要性を評価。評価にあたっては、当社グループの視点として、取締役・国内外拠点のCSR責任者・関連部門にアンケートを実施。ステークホルダーの視点としては、投資家・お取引先様・従業員に対してアンケートを実施するとともに、地域社会・お客様とのこれまでの対話結果などを反映。

### Step 3

#### 有識者との対話

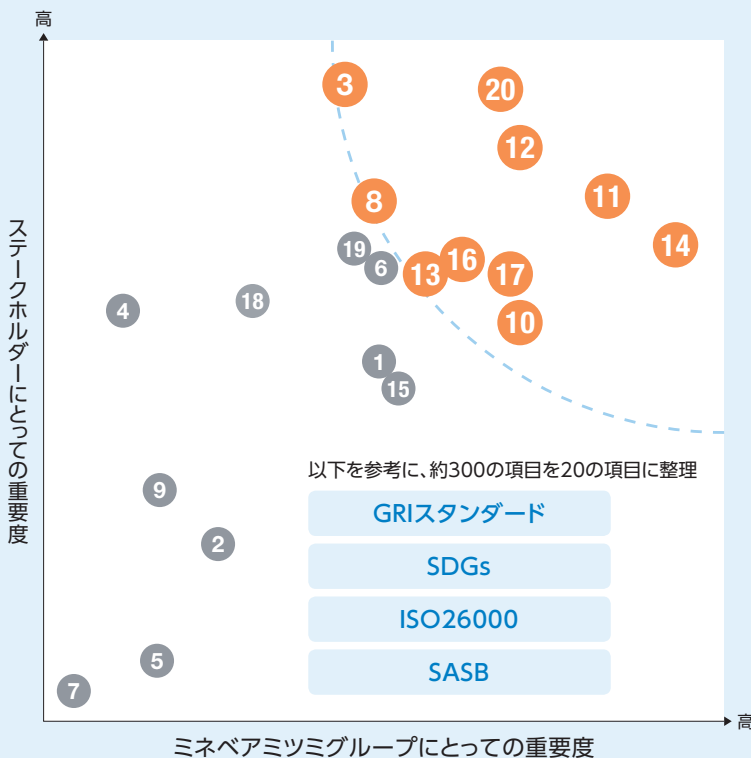
Step2で重要性を評価した結果を踏まえ、株式会社日本政策投資銀行竹ヶ原啓介氏(執行役員産業調査本部副本部長兼経営企画部サステナビリティ経営室長)との対話により、考え方と結果に対するフィードバックをいただく。

### Step 4

#### マテリアリティの特定

Step3の結果を踏まえ、整理したマテリアリティを取締役に報告し、当社グループのマテリアリティとして最終決定。

## 検討・抽出した項目と評価結果



- ① エネルギー利用の効率化
- ② 再生可能エネルギー利用の拡大
- ③ 環境貢献型製品の創出
- ④ 環境負荷物質の削減
- ⑤ 資源の有効活用
- ⑥ 気候変動への適応
- ⑦ 生物多様性の保全
- ⑧ 地域社会との対話と発展への貢献
- ⑨ 人権の尊重
- ⑩ 従業員の安全と健康
- ⑪ 働きやすい職場づくり
- ⑫ グローバル規模の人材育成
- ⑬ グローバル規模のダイバーシティの推進
- ⑭ 安全・安心な製品の供給
- ⑮ 顧客満足度の向上
- ⑯ 責任ある調達推進
- ⑰ 社会課題を解決するソリューション創出
- ⑱ 健全なコーポレートガバナンスの確立
- ⑲ コンプライアンスの遵守
- ⑳ リスクマネジメントの強化



## 重要テーマとマテリアリティ

### 重要テーマ 1

### すべての従業員が力を最大限発揮できる環境づくり



	マテリアリティ	重要であると評価した理由	範囲	関連するGRIスタンダード	主に貢献するSDGs
1	10 従業員の安全と健康	▶ 従業員の安全確保・生産性向上	当社グループ	403	
2	11 働きやすい職場づくり	▶ 従業員のモチベーション・満足度の向上・生産性向上	当社グループ	401、402、407	
3	12 グローバル規模の人材育成	▶ 従業員の成長 ▶ グローバル企業としての人材確保	当社グループ	404	
4	13 グローバル規模のダイバーシティの推進	▶ 従業員の確保 ▶ 従業員の人権尊重、相合の推進	当社グループ	405	

### 重要テーマ 2

### 社会の発展に貢献する価値の創造



	マテリアリティ	重要であると評価した理由	範囲	関連するGRIスタンダード	主に貢献するSDGs
5	3 環境貢献型製品の創出	▶ 深刻化する環境問題解決への貢献 ▶ お客様からの環境性能向上の要請拡大	当社グループ	302	
6	8 地域社会との対話と発展への貢献	▶ 世界中の拠点における信頼獲得 ▶ 地域発展による事業継続	当社グループ、 地域社会	202、203、 303、413	
7	17 社会課題を解決するソリューション創出	▶ お客様からの社会課題解決の要請の拡大 ▶ 技術の進展による生産性の向上	当社グループ	—	

### 重要テーマ 3

### 社会を支える精密部品の安定供給



	マテリアリティ	重要であると評価した理由	範囲	関連するGRIスタンダード	主に貢献するSDGs
8	14 安全・安心な製品の供給	▶ あらゆる製品に使われる部品メーカーとしての製品性能の向上と信頼性の確保	当社グループ、 お取引先様	416	
9	16 責任ある調達推進	▶ サプライチェーン全体の継続性の確保 ▶ レピュテーションリスクの低減	当社グループ、 お取引先様	308、414	
10	20 リスクマネジメントの強化	▶ 高まる環境・情報リスク下における事業継続性の確保	当社グループ	418	

# 進化し続けるセブミツミ

## ～フィリピン セブミツミでの取り組み～

2017年1月、  
ミネベアとミツミ電機の経営統合により  
さらに事業を拡大するミネベアミツミグループ。  
当社グループの主力生産拠点の一つである、  
フィリピンにあるセブミツミでも、  
社は「五つの心得」が浸透し実践されています。  
地域と共存するCSRの取り組みをご紹介します。



フィリピン、セブ島にあるCEBU MITSUMI, INC. (以下、セブミツミ)は、アクチュエーターやコネクタ、電池モジュールなどを生産しており、ミネベアミツミグループのエレクトロニクス・オプトエレクトロニクス分野での成長を支えています。セブミツミは、フィリピンにおける最大拠点で、その雇用数は約20,000名に上ります。1989年にフィリピンのセブ島に設立してから、2019年でちょうど30周年を迎えます。

### CSRを通じて組織を強くする

セブミツミでは、経営統合前より地域社会やその一員でもある従業員とともに発展していこうと活動を続けています。統合によるグループのさらなる一体感を高めるため「五つの心得」が記載された携帯カードを全従業員に配布し、常に携帯しています。

「CSRの主な意味合いは、事業の継続と、従業員のロイヤルティにつながることでと考えています」と語るのは、セブミツミの現地責任者である坂主。「特に注力しているテーマは、人材育成や働く環境の整備です。フィリピンは国としてエンジニアが不足しているので、しっかりと育成する必要があります。成長した従業員やオペレーターは当社にとってかけがえのない財産ですから、継続して働いてもらうために働く環境をしっかりと整備すべきです。また、社会貢献活動な

ども従業員主体で行っています。地域の発展に貢献するということだけでなく、従業員が会社を誇りに思ってもらえるという意味でも効果があります。『五つの心得』にもありますが、従業員が誇りを持てる会社であることが組織の成功につながります。そういった意味合いで、一番重要なステークホルダーは従業員だと考えています」と坂主はCSRの重要性を語ります。



セブミツミ  
プレジデント  
坂主 克浩

### 従業員が活躍し、誇れる会社に

グループ執行役員で人事責任者のCaesarは「お客様の期待に応えるには、セブミツミを製造、自動化、システムの中核的拠点にする必要があります。限られた資源の中で、それを実現するには人材の育成が最も重要です」と話します。人材育成でも特に力を入れている分野の一つがリーダーシップ開発と技術力の向上です。セブミツミは約20,000名近くの従業員が所属する組織のため、現地で採用した人材に強いリーダーシップが求められます。そのため、「Leadership Enhancement and Advancement Program」というリーダー育成研修を2012年度より実施しており、100名以上の



セブミツミ  
HR Director  
**Caesar D. Augusto**

プログラム卒業生を輩出しています。受講者は数カ月にとり自身で設定したゴールに向けて取り組みます。これまで高い効果を実感しており、現在リーダー層の多くを現地採用の従業員が担っています。

技術専門職の育成にも力

を入れていきます。エンジニア、スタッフとそれぞれの職種における、階層別の研修プログラムを設け、職種・階層ごとに必要な知識と技術を整理し伝えることで、各人の専門性をより一層高めるようにしています。オペレーターの育成にも力を入れており、「ベスト・オペレーター・プログラム」はその一環として開催。このプログラムは選抜制のもので、組織づくりや文化形成、基礎数学、5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)などを定着させるもので、より大きな視点で工場での活動を考えるものです。2003年度～2018年度に、約1,500名のオペレーターが参加しており、工場全体で意識の底上げになっています。また、大学の先生を会社に招き、働きながら短期大学卒業程度の資格を取ることが可能になる「Graduate Industrial Technical Program」も提供しています。そのほかにも社内独自の技術認証プログラムやさまざまな社内表彰制度も設けており、高い技術レベルを維持できるよう努めています。

従業員が誇りを持てる会社にするため、働く環境と併せ、従業員が生活する地域の課題解決にも目を向けることが重要です。そのための取り組みの一つが、工場敷地内にある医療施設の無料利用です。工場があるダナオ市には病院が少ないため、医療サービスを受けることが難しい環境にあります。そこで、従業員の日常の健康を守り、会社で働き続けられる環境を整えるために開始したのが本取り組みです。周辺の企業では珍しい取り組みで、従業員の満足度向上にもつながっています。従業員の共同出資で運営されている生活協同組合の取り組みも活発で、工場の前に銀行や薬局、ランドリーなどの施設が従業員に喜ばれています。

従業員の安全・安心への配慮も重要な取り組みです。安全衛生方針の下、工場で働く従業員の安全を確保するために、さまざまな研修を実施しています。また、社会問題である児童労働などの人権問題についても、発生しないよう厳しく取

り締め対応しています。フィリピン当局から労働基準について問題がないことの認証を受けており、すべての従業員が安全・安心に働ける環境を整えています。

このような取り組みにより、従業員の満足度も高く、離職率は非常に低くなっています。



無料医療サービスの様子

### 従業員の声



セブミツミ  
IS Department  
Technical Support  
**Angelyn Salcedo**

わたしはより高いポジションを目指して Graduate Industrial Technical Programに参加しました。働きながら学べる機会を会社が用意してくれることは非常にうれしいです。これからも学習を続けていきたいです。

## 地域社会とともに発展する

セブミツミの従業員の多くは、周辺地域から採用しています。地域社会とともに発展していくことが重要だと考えており、さまざまな取り組みを実践しています。

その一つが、フィリピン政府からの要請もあり、生態系の保全・台風などによる災害対策を目的とした「マングローブの植林活動」です。周辺地域では、マングローブ林の農業への転用や、炭や薪のための伐採などが問題化しています。地域の方と協力して2011年度にこの活動を開始し、これまでに約50,000本を植林しました。また、そのほかにセブミツミが購入したココナッツやカカオの苗を、従業員とその家族、協力工場に配布し、山への植林活動を通じ防災対策に努めています。

また、地域には教育を十分に受けることのできない子どもが多く、教育の機会を増やしていくことは地域の発展にとって重要であるため、多くの学校に寄付を行っています。読み書きなど基礎教育や職業訓練を行う施設である「The Sister of Mary's School - Girlstown」への奨学支援寄付もその一環です。これまでのセブミツミの取り組みについて、生徒の皆様や校長を務めるシスターのLaresa氏からも感謝の言葉をいただいています。





植林したマングローブ



Santican National High Schoolに寄贈した教室



チャリティーマラソン大会「Run for Education」で走る従業員

「Run for Education」というチャリティーマラソン大会の開催もそうした地域への貢献活動です。従業員の健康増進と地域発展のための寄付集めを目的に2013年から実施しており、1,200名程度が毎年参加しています。これまで200万円以上の寄付が集まっており、周辺地域の学校への設備や教材の支援に使われています。

教育プログラムの中でも特に力を入れているのが「Robotics Laboratory Program」です。近隣のSan Jose Recoletos大学などと協力し、エンジニアの育成を行っています。フィリピンにエンジニアの数が少ないのは、大学にしっかりとした機械設備がないことが一つの要因でした。そこで、セブミツミが大学構内に設備の提供を行いMitsumi Robotics Labを大学と協力して設立。この施設や当社の工場も利用し、当社の従業員が授業を行うことで、学生に実践的な教育を提供しています。卒業制作ではAIを使ったロボットを共同制作するなど非常にレベルの高いエンジニアを育成しています。これまで452名の学生がプログラムに参加しており、その卒業生から当社に入社する方もいます。また、最新機械設備の利用方法を大学の先生に教える活動も行っており、大学全体の教育レベル向上に貢献しています。

San Jose Recoletos大学のOIC-Dean College of EngineeringであるBadana氏からは「セブミツミから機械設備などの支援を受けたことに非常に感謝しています。学生たちも、最新の設備や技術に実際に触れることができ、大きな刺激になっています。当大学とセブミツミとのこの良好な関係を持続させていきたいです」と活動への感謝の言葉をいただいています。

ほかにも海岸の清掃活動や献血、被災地の緊急支援などさまざまな活動を地域社会で実施しています。「地域全体への貢献をこれからも続け、従業員が誇りを持てる会社、地域社会に歓迎される会社を目指します」とCaesarは活動への手ごたえを語ります。

### 地域の方の声



Santican National High School  
School Principal

**Mr. Algen Laurente**

セブミツミには、教室を寄贈していただきました。大変感謝しています。将来は、サイエンスの授業で、従業員の方を講師として派遣していただくなどさらなる交流ができればうれしいです。

### Robotics Laboratory Program参加者の声



セブミツミ  
Equipment Engineer  
**Phillip Michael Castillon**

Robotics Laboratory Programは、生徒の学ぶ意欲を支援する良い取り組みです。大学には機械設備そのものがなかったため、ここでの学びは新たな気づきが非常に多かったです。終了後、セブミツミで働き始めましたが、学びは現在の仕事にも生きています。

## 地域社会の自然環境を守る

地域社会の発展を持続可能なものにするためにも、環境への取り組みは欠かすことができません。特に、沿岸部に隣接するセブミツミには、環境配慮が不可欠です。そのため、「ミネベアミツミグループ環境方針」をもとに、環境への取り組みを推進しています。

排水処理に関しては、近隣のカモテス海を保全するために特に力を入れています。フィリピンでは、法令で水質を保全するための取り組みが定められており、その遵守に力を入れています。工場排水に関しては、排水処理施設で排水基準まで浄化。また、近隣に影響が出ていないか海での水質のサンプル調査も実施しています。現在、2021年に改定される法



The Sister of Mary's School - Girlstownで職業訓練を行う生徒

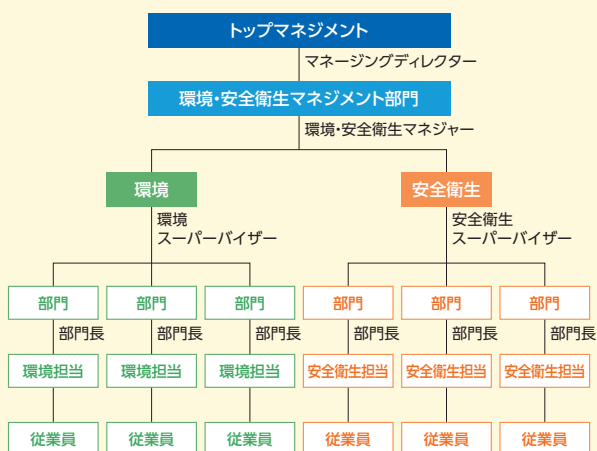


寄付をしたScience and Technology Education Centerの先生とセブミツメンバー



San Jose Recoletos大学の先生とセブミツメンバー

### セブミツ 環境・安全衛生体制図



制度への対応を行うため、新たな下水処理施設を建設するのに加え、地下水の利用を減らすために雨水利用施設も整備しているところです。

気候変動の影響を受けやすいフィリピンでは、CO<sub>2</sub>排出量削減のためのエネルギーの効率化も重要な取り組みの一つです。2018年度も、従業員への意識啓発に加え、遮熱塗装を工場の屋根に施しているほか、LEDライトの活用、空調におけるインバータの利用など施設面での更新も実施。エネルギー消費量・CO<sub>2</sub>排出量をそれぞれ5%近く改善してきました。こうした取り組みはコストの削減にもつながっており、経営上重要な取り組みになっています。

廃棄物の削減についても、リデュース、リユース、リサイクルの3Rに加え、リカバー（廃棄物が出てしまう場合でもその影響を最小化する）を加えた「3Rs + 1R」というコンセプトで取り組みを進めています。工場からは段ボール、木材、ビンなど多様な廃棄物が出ますが、ほぼ再利用（リサイクル）が行われており、現在リサイクル率は99%近くにも上ります。また、どうしても廃棄物になってしまうものについては、代替燃料として活用したり、セメントの原材料として利用しています。

こうした取り組みは、お取引先様にもお願ひしい、サプライチェーン全体で進めています。結果として、お客様より、環境に配慮したパートナーとして認定されるなど、一定の評価をいただいています。

## 「五つの心得」の実践

新たにグループに加わったセブミツミにとっても、ミネベアミツミグループの社是である「五つの心得」で語られている「従業員が誇りを持てる会社でなければならない」「地域社会に歓迎されなければならない」といった考え方は、まったく新しい考え方ではありません。これからもグループ全体で考え方を共有し実践することで、社会にとって必要な存在を目指していきます。



生活協同組合併設の教会



セブミツミの排水処理施設



ISO14001の内部監査の様子



成長を続けるミネベアミツミグループ。22カ国に83の製造拠点、27カ国に80の営業拠点を有し、約10万人の従業員を擁しています。次の成長段階に向け、多様な人材を採用し、グローバルに通用する人材を育成するため、さまざまな取り組みを行っています。



人事総務部門  
人材開発部 副責任者  
有馬 裕美

## 熱いチャレンジを応援

ミネベアミツミは1951年に日本で初めてのミニチュアベアリング専門メーカーとして東京都板橋区に誕生しました。早くから海外に進出しており、1970年代にシンガポールへ進出し、タイ、中国、フィリピン、カンボジアなど、今では世界22カ国に83の製造拠点、27カ国に80の営業拠点、約10万人の従業員がおり、売上高の60%、生産高の90%以上を海外から生み出しています。今後、自律的成長とM&Aを両輪にさらなるグローバルビジネス拡大を見据え、国籍・文化的背景・出身母体を問わず人材を見だし、活躍できる環境をより整えるためにも、経営層、マネージャー、あるいは製造、営業、管理などさまざまな階層・部門間のコミュニケーションを活性化し、人と人とのシナジーを最大化していきます。

当社が社員に求める資質は、「ものづくりが好きな人」、「世界規模で働きたい人」、「情熱を持ち続ける人」の3つです。当社はOJT\*を中心とした育成により、特に日本人の若手、中堅従業員を海外拠点へ派遣し、さまざまな国籍のメンバーと協力しながら、ものづくりの経験を通じて人材を育成しつつ、社員の資質と能力向上のための研修も行っています。

日本国内では若手、中堅社員、係長職、課長職、部長職向けの階層別研修のほか、次世代を担う幹部育成としては、ジェネラリスト育成の「事業戦略研修」、経営貢献できる技術マネージャー育成のための「技術経営研修」を行っています。また、若手社員が目の前の課題に対して自ら考え、判断

し、取り組むことができる従業員に早期に成長できるよう、入社から2年間、各部署と連携しながら人材開発部が育成に関わっています。

さらに、グループ従業員の90%以上を占める海外ローカル従業員から、将来、現地責任者を担う人材を輩出するための取り組みも行っています。具体的には、海外現地法人のローカルリーダーを本社で1年間受け入れ、各事業所や部門での研修を通じて、広い視野と経営的な視点を身につける海外トレーニー制度や、主要拠点であるタイ、中国では次世代ローカル幹部研修を行っています。

当社は社是において「従業員が誇りを持てる会社でなければならない」と定め、従業員が最も大切なステークホルダーであると考えています。特に、これからの10年で売上高2.5兆円、営業利益2,500億円を目指すべく、2019年に定めたマテリアリティ(重要課題)において、従業員の安全と健康、働きやすい職場づくり、グローバル規模の人材育成、グローバル規模のダイバーシティの推進という、従業員を対象とした4つの課題を選定し、すべての従業員がその力を最大限発揮できる環境づくりをさらに加速しています。ミネベアミツミが社会に必要とされる会社を目指し、より多様な人材育成を推進するべく人材開発部が中心となり、世界中の拠点と連携しながら取り組みを進めていきます。

\*OJT: On-The-Job Training. 実務を通して上司や先輩従業員が部下の指導を行う教育訓練

### 当社の求める人物像

グローバルな視点を持ち、さまざまな国籍のメンバーと互いに多様性を尊重し、協力しながらチームで大きな仕事を成し遂げられる人

世界規模で働きたい人

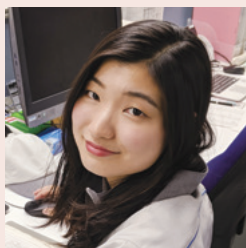
ものづくりが好きな人

プロとしてより良い製品を生み出し、世界中に広めたいという気概を持ち、ものづくりへの「情熱」を絶やさない人

情熱を持ち続ける人

さまざまな課題・困難に直面しても、「できる理由」を見つけ、高い目標に挑戦し続ける人。自ら考え、主体的に行動し、変革に取り組める人

## 階層別研修受講者(若手社員研修)



メカアッシー事業部  
生産性改善部 生産性改善課  
日比 笑子

若手社員研修では、今後のキャリアや現在の担当業務の改善、職場でのコミュニケーションについて考えるワーク、スピーチ練習などを行いました。中でも、今後のキャリアについて考えるワークでは、「今できること」「やりがいを感じる点」「期待されていること」の3つの項目を掘り下げることによって、今までではっきりと分からなかった「自分が今後どうしていきたいのか」ということが分析でき、「3年後にどんな従業員になりたいか」という具体的な目標設定ができたので良かったです。

現在は研修で立てた目標を達成できるように意識して業務に取り組んでいます。今後も定期的にキャリアや目標について考え、常に意欲を持って業務に取り組めるようにしたいと思います。

## 階層別研修受講者(若手社員研修)



半導体事業部  
設計技術部 センサ技術課  
梅貝 俊平

今回の若手社員研修では、3年後を見越したスキルアップの方針を得ることができました。自分の望むキャリアと周囲から望まれる役割をすり合わせる際、客観的視点が重要であると気付きました。また、先輩・上司の考えや、自分への期待を知ることができたことも貴重な経験でした。

研修内容の「目標に向けた行動の習慣化」について、自分でさらに取り組みたいと強く感じます。エンジニアとして新しい技術や時代の変化に対応しなければならないと、入社当時から先輩より教わってきましたが、なかなか専門知識のインプットの習慣が身に付けられずにいました。今回の研修をきっかけに、習慣化するという汎用スキルを習得し、自主学習に取り組み、20代をがむしゃらに頑張れという上司の期待に応えたいです。そして先輩のような半導体回路技術で社会に貢献できる技術者を目指します。

## コロンビア大学留学経験者



製品販売統括部  
レゾナントデバイス統括部 責任者  
三石 正輝

コロンビア大学ビジネススクールの客員研究員として9カ月間留学し、MBA講義の聴講や数多くのセミナー、イベントに参加する機会をいただきました。講演会には各国首脳や外相がスピーカーとして招かれ、世界情勢の最前線に立つリーダー達の思いを直接聞くことができる大変貴重な体験でありこれまでの自身の業務を振り返り、今後の業務への取り組み方やリーダーシップのあり方について考える良い機会になりました。

他、日本経済経営研究所における研究活動では、「Product Management in the “Diversified-Products” Manufacturer : Inseparable Relationship Between “PM” & “UX”」をテーマに発表しました。留学を通じて、人種、文化、宗教の壁を超えて人々と一緒に議論を交わした経験は自信になり、世界中のお客様と積極的な交渉を進める上で役立っています。今後もビジネスを成功に導けるようなチームづくりに貢献したいと思います。

## 海外トレーニー制度利用者



経理部  
Thananan Buasroung

わたしはタイのバンパイン工場から、日本へ研修に来ています。プログラムは1年間、東京本部の経理部で行われています。バンパイン工場では主にメカアッシーの原価計算を担当していました。東京本部では、対外発表する財務諸表の作成方法やグループ会社間の債権債務の照合などを勉強しています。業務の背景を理解するよう努め、タイに戻ってからも、ここで経験したことを生かして本部の支援をしたいと思っています。

日本の言葉や文化、働き方、ライフスタイルなど学ぶことが多くありますが、日本のメンバーはいつも親切にサポートしてくれています。この研修を通じて、日々新しいことを学び、成長していきたいです。

# CSR推進活動の目標と実績

## 2018年度実績と2019年度および中期目標

		2018年度目標	2018年度実績
マネジメント	CSRマネジメント	ミツミ電機の海外拠点でCSR担当者を設置し、CSR浸透活動を実施 <b>CSR</b>	ミツミ電機の海外拠点にCSR担当者を設置し、重要課題に関するアンケートを実施
		ミネベアミツミグループとしてのマテリアリティを特定 <b>CSR</b>	ミネベアミツミグループとしてマテリアリティを特定
	コーポレートガバナンス コンプライアンス リスクマネジメント	フィリピンでの体制構築および研修によるコンプライアンスの浸透促進 <b>コンプライアンス</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>フィリピンでコンプライアンスオフィサー・正担当者・副担当者を任命</li> <li>e-ラーニング研修と理解度テストの実施</li> </ul>
		コンプライアンスに関するe-ラーニング研修の実施 <b>コンプライアンス</b>	ミツミ電機出身の全従業員を対象に、コンプライアンスに関する解説と理解度テストを含むe-ラーニング研修を実施
		ミツミ電機の主要生産拠点でのBCP策定推進 <b>総務</b>	ミツミ電機の千歳工場で行動計画、フィリピン・セブ工場で基本計画を確認
		タイのロップリ工場で、BCP行動計画を策定 <b>総務</b>	タイ・ロップリ工場で、BCP行動計画を策定
	国内事業所、タイなどにおけるBCP訓練の推進 <b>総務</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>軽井沢工場で年3回のBCP訓練を実施</li> <li>タイで洪水対策のシミュレーション訓練を実施</li> </ul>	
社会	お客様とのかかわり	フタル酸エステルのフリー化の推進 <b>品質</b>	グリーン調達管理要領の付属書にフタル酸エステルの使用禁止を明記し、説明会を開催
		サプライチェーンの品質マネジメントのためのサプライヤー・マニュアルの展開 <b>品質</b>	サプライヤー品質保証マニュアルを策定
		ISO 9001:2015認証への移行の継続支援 <b>品質</b>	すべての事業所でISO 9001:2015認証への移行を完了
		ミツミ製品への統一バーコードラベルの導入 <b>物流</b>	ミツミ製品担当の事業部へ趣旨説明を実施
		RFIDタグ試験のスタート <b>物流</b>	タイ発香港向け海上輸送において実証実験を実施
		AEO認定の取得および継続活動の推進 <b>物流</b>	マレーシアでのAEO認定の取得を推進
	従業員とのかかわり	人権尊重に対する教育の継続的強化 <b>人材開発</b>	階層別研修でのハラスメント教育や人権尊重に関する教育を実施
		ミネベアミツミグループとしての次世代リーダー育成の強化 <b>人材開発</b>	経営・技術などに特化した次世代リーダー研修の実施
		女性活躍の継続的推進 <b>人材開発</b>	女性活躍のための継続的な環境づくり
		障がい者雇用の法定雇用率達成と雇用維持 <b>人事</b>	障がい者雇用率1.61% (2018年6月時点)
		残業時間の継続的削減 <b>人事</b>	各部署への継続的な注意喚起、勤怠管理システムの強化を実施
	お取引先様とのかかわり	ミツミ電機の国内主要お取引先様に対して、「CSR調達推進自己チェックシート」によるCSR推進状況の確認 <b>資材</b>	ミツミ電機の国内主要お取引先様へCSR推進状況確認のための「CSR調達推進自己チェックシート」を配布し630社から回答受領
	地域社会・国際社会とのかかわり	国内外の拠点における地域との対話促進を継続 <b>CSR</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>軽井沢工場、米子工場において継続的に地域との対話を実施</li> <li>タイやフィリピンなどの海外拠点で、取り組み推進のために地域の方との対話を実施</li> </ul>
	株主の皆様とのかかわり	事業計画の進捗および施策に関する積極的な情報開示の継続的推進 <b>IR</b>	株主総会、年2回の報告書送付、ウェブサイトなどを通じ、中期事業計画および施策の情報開示を推進
国内外の投資家との積極的なコミュニケーションの継続的推進 <b>IR</b>		年4回の機関投資家・証券アナリスト向け決算説明会および決算説明電話会議、年1回の欧米・アジアでの投資家訪問などを推進	
統合報告書の発行 <b>IR</b>		ミネベアミツミグループ統合報告書を発行し、10社程度の機関投資家と対話を実施	
環境	CO <sub>2</sub> 排出量を生産高原単位で2015年度比で9%削減する <b>環境</b>	2015年度を基準年として、CO <sub>2</sub> 排出量原単位で1.5%削減(為替影響を除くと7.1%削減)	
	廃棄物等排出量を生産高原単位で2015年度比で9%削減する <b>環境</b>	2015年度を基準年として、廃棄物排出量を生産高原単位で1.0%削減(為替影響を除くと6.6%削減)	
	廃棄物の再資源化率を97.3%とする <b>環境</b>	廃棄物の再資源化率は、98.1%	
	用水使用量を生産高原単位で2015年度比で9%削減する <b>環境</b>	2015年度を基準年として、用水使用量を生産高原単位で6.0%削減(為替影響を除くと11.4%削減)	
	生物多様性保全の推進 <b>環境</b>	生態系への悪影響を防ぐための3Rを推進	
	海上コンテナの積載効率向上に向けた梱包改善の推進 <b>物流</b>	平積みから段積み積載に変更するなど、積載率を向上	



## CSR推進活動の目標と実績

ミネベアミツミグループでは、CSRの取り組みを進める上で、PDCA\*のサイクルを適切に回してマネジメントしていくこ

とが重要であると考え、CSR目標を定め取り組んでいます。

\*Plan(計画)・Do(実行)・Check(評価)・Action(改善)を繰り返すことによって、管理業務を継続的に改善していく手法

評価	2019年度目標	中期目標(2020年度めど)
○	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループでのCSRマネジメントの強化 <b>CSR</b></li> <li>ステークホルダーの期待・要請理解を通じたマテリアリティをベースとした、取り組みの推進 <b>CSR</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ステークホルダーの期待・要請理解を通じたマテリアリティをベースとした、CSRマネジメントの推進 <b>CSR</b></li> </ul>
○	<ul style="list-style-type: none"> <li>階層別研修におけるコンプライアンス研修の実施 <b>コンプライアンス</b></li> <li>グループ全体でのコンプライアンス意識調査 <b>コンプライアンス</b></li> <li>内部通報における第三者認証登録制度の取得 <b>コンプライアンス</b></li> <li>タイ・ロジャナ工場およびナワナコン工場のISO 22301の取得 <b>総務</b></li> <li>ミツミ電機フィリピン・セブ工場のBCP拡充 <b>総務</b></li> <li>非常時の通信手段である「衛星電話」を国内主要工場に配備 <b>総務</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミネベアミツミグループとしてのグローバルコンプライアンス体制の構築・強化 <b>コンプライアンス</b></li> <li>世界主要拠点でのBCPの定着 <b>総務</b></li> </ul>
○	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規事業に対する品質マネジメントシステム活動の支援 <b>品質</b></li> <li>製品品質の向上を目指したボトムアップと管理 <b>品質</b></li> <li>ミツミ製品への統一バーコードラベルの導入 <b>物流</b></li> <li>RFIDタグ試験運用のスタート <b>物流</b></li> <li>AEO認定の取得および継続活動の推進 <b>物流</b></li> <li>ロボットによる省人パイロットモデル倉庫の構築開始 <b>物流</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミネベアミツミグループとしての新体制における品質マネジメントシステムの構築 <b>品質</b></li> <li>ロボットによる省人パイロットモデル倉庫の構築開始 <b>物流</b></li> <li>AIによる画像認識技術を応用した精度の高い出庫工程の構築 <b>物流</b></li> </ul>
○	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権尊重に対する教育の継続的強化 <b>人材開発</b></li> <li>ミネベアミツミグループとしての次世代リーダー育成の強化 <b>人材開発</b></li> <li>女性活躍の継続的推進 <b>人材開発</b></li> <li>障がい者雇用の法定雇用率達成と雇用維持 <b>人事</b></li> <li>残業時間の継続的削減 <b>人事</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミネベアミツミグループとしての統合効果を生かし、グローバルでの事業の拡大、発展を積極的に推進するための人材開発強化 <b>人材開発</b></li> <li>女性管理職の割合の増加(2021年に2016年の2倍を目標とする) <b>人事</b></li> <li>社会的要請を積極的にくみ取りつつ、従業員が生き生きと働くための施策推進 <b>人事</b></li> </ul>
○	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミツミ電機の中国におけるお取引先様に対して、「CSR調達推進自己チェックシート」によるCSR推進状況の確認 <b>資材</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミツミ電機のアジアでのお取引先様に対して、「CSR調達ガイドライン」によるCSR推進状況確認を推進 <b>資材</b></li> </ul>
○	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内外の拠点における地域との対話促進を継続 <b>CSR</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内外でのCSR浸透活動の継続的実施 <b>CSR</b></li> </ul>
○	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業計画の進捗および施策に関する積極的な情報開示の継続的推進 <b>IR</b></li> <li>国内外の投資家との積極的なコミュニケーションの継続的推進 <b>IR</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>より多くの株主・投資家の皆様にミネベアミツミへの理解を深めていただけるよう、積極的な情報開示とコミュニケーションの継続 <b>IR</b></li> </ul>
△	<ul style="list-style-type: none"> <li>CO<sub>2</sub>排出量を生産高原単位で2015年度比で12%削減する <b>環境</b></li> <li>廃棄物等排出量を生産高原単位で2015年度比で12%削減する <b>環境</b></li> <li>廃棄物の再資源化率を97.3%とする <b>環境</b></li> <li>用水使用量を生産高原単位で2015年度比で12%削減する <b>環境</b></li> <li>生物多様性保全の推進 <b>環境</b></li> <li>ミネベアミツミグループの環境配慮製品認定制度の創設 <b>環境</b></li> <li>海上コンテナの積載効率向上に向けた梱包改善の推進 <b>物流</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CO<sub>2</sub>排出量を生産高原単位で2020年度までに2015年度比で15%削減する <b>環境</b></li> <li>廃棄物等排出量を生産高原単位で2020年度までに2015年度比で15%削減する <b>環境</b></li> <li>廃棄物の再資源化率を2020年度までに97.5%とする <b>環境</b></li> <li>用水使用量を生産高原単位で2020年度までに2015年度比で15%削減する <b>環境</b></li> <li>生物多様性保全の推進 <b>環境</b></li> </ul>

CSR CSR推進室 **コンプライアンス** コンプライアンス推進室 **総務** 総務部 **品質** 品質保証本部  
**物流** 物流部 **人材開発** 人材開発部 **人事** 人事部 **資材** 資材部 **IR** IR室 **環境** グループ環境管理部



# ミネベアミツミグループのCSR

## 基本的な考え方

ミネベアミツミグループは、企業の使命とは法令の遵守だけでなく、企業倫理に則した公正かつ、適切な事業運営を通じて、地球環境および人類の持続可能な発展に貢献することと考えています。この使命を果たすため、当社グループでは、社是として位置付けた「五つの心得」と、これを基本とした「ミネベアミツミグループのCSR基本方針」および「ミネベアミツミグループのCSR実践に向けた活動方針」を策定し、取り組みを進めています。

2015年4月に、「CSR実践に向けた活動方針」を改定しました。製品を通じて社会にプラスとなる価値をつくるという考えに基づき、「製品を通じた社会価値の創造」の項目を追加しています。

また、2012年に参加を表明した国連グローバル・コンパクトの10原則や、2015年に国連持続可能な開発サミットにおいて採択されたSDGs(持続可能な開発目標)についても重要な考えと位置付け実践に努めています。

### 五つの心得

- ◎ 従業員が誇りを持てる会社でなければならない
- ◎ お客様の信頼を得なければならない
- ◎ 株主の皆様のご期待に応えなければならない
- ◎ 地域社会に歓迎されなければならない
- ◎ 国際社会の発展に貢献しなければならない

### ミネベアミツミグループのCSR基本方針

ミネベアミツミグループは、社会を支える精密部品メーカーとして、「信頼性が高く、エネルギー消費の少ない製品を安定的に供給し、広く普及させる」ことを通して、地球環境および人類の持続可能な発展に貢献します。

### ミネベアミツミグループのCSR実践に向けた活動方針

#### 1) 「五つの心得」と「行動規範」

CSR活動の推進に当たっては、「五つの心得」を基本として、適切な組織統治のもと、ミネベアミツミグループ「行動規範」を遵守していきます。

#### 3) 継続的改善と意識向上

ミネベアミツミグループの社会的責任、取り組むべき重要課題を理解した上で達成すべき目標を掲げ、実行とレビューを繰り返して、CSR活動を継続的に改善していきます。また、こうした活動を通して、従業員一人一人のCSRIについての意識向上を図っていきます。

#### 2) 製品を通じた社会価値の創造

社会を支える精密部品メーカーとして、「信頼性が高く、エネルギー消費を減らす製品」を積極的に開発し、広く普及させます。

#### 4) ステークホルダーとの対話

ステークホルダー(従業員、お客様、株主の皆様、地域社会、国際社会、お取引先様、環境など)との積極的な対話を通して、その期待・要請に応えるとともに、企業活動の透明性向上と説明責任を果たしていきます。

#### ◆ ミネベアミツミグループのステークホルダー



#### ◆ 国連グローバル・コンパクトの支持



#### ◆ SDGsの支持







## ミネベアミツミグループのステークホルダー

ミネベアミツミグループは、社是の「五つの心得」で示されている「従業員」「お客様」「株主の皆様」「地域社会」「国際社会」のほかに、「お取引先様」およびわたしたちの社会を支えている「環境」をステークホルダーとして分類しています。当社グループでは、CSR活動に取り組む上で、各ステークホルダーとのコミュニケーションを通じて、その期待に応えることが欠かせないと考えています。

## CSR推進体制

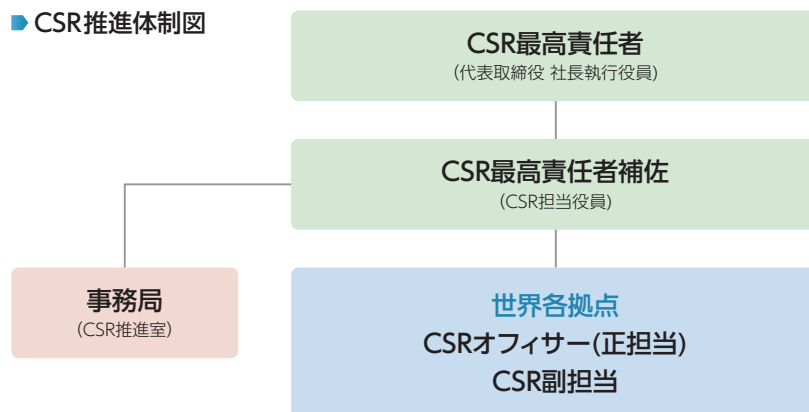
ミネベアミツミグループは、「ミネベアミツミグループのCSR基本方針」および「ミネベアミツミグループのCSR実践に向けた活動方針」を基にCSR活動を推進するために、最高責任者を社長執行役員、最高責任者補佐をCSR担当役員とするCSR推進体制を構築しています。

また、CSR体制のさらなる強化と社内推進活動の発展などを行う事務局として、CSR推進室を設置しています。各拠点でCSR活動の啓発と現状把握を行うCSRオフィサー（正担当）、CSR副担当と連携し、グローバルでのPDCAマネジメントを推進しています。引き続きCSR活動を推進するため、グループ全体での体制の強化に取り組んでいきます。

## サステナビリティ推進部門の新設

2019年4月、ミネベアミツミグループとして持続可能な社会の発展に貢献すること、監視業務と執行業務を分離しガバナンス体制を強化することを目的に、サステナビリティ推進部門を新設しました。

### CSR推進体制図



## マテリアリティの特定

ミネベアミツミグループでは、国際社会の要請やステークホルダーとのコミュニケーションを鑑み、当社グループの果たすべき社会的責任の重要な課題を特定し、CSRをより強力に推進する準備を進めてきました。2019年度、自社にとっての重要性とステークホルダーにとっての重要性をそれぞれ考慮し、当社グループが重点的に取り組むマテリアリティ（重要課題）を特定しました。（詳細はP.7をご覧ください）

## グループ内でのCSR浸透活動

ミネベアミツミグループは、CSR推進活動の目標に対する、各部門の実施担当者を集めたCSR勉強会を2012年度より実施しています。

2018年度は年2回発行される社内報においてCSRの啓発をしたほか、ミツミ電機の国内外拠点のCSRオフィサーを通して、CSRの社内浸透活動を実施しました。また、新入社員や中途採用社員の入社時に研修を実施しています。

## 今後の課題・目標

グローバルに事業を展開するミネベアミツミグループとして、2019年4月に当社グループ入りした株式会社ユーシンとともに国際的な基準にのっとったCSRの推進を目指し、マネジメント体制の強化やCSRの啓発・浸透活動を進めます。

また、特定したマテリアリティへの取り組みを通し、SDGsの達成に向けて貢献し、事業を通して社会課題の解決に取り組んでいきます。

# コンプライアンス

## 基本的な考え方

ミネベアミツミグループは、コンプライアンスの実践がCSR推進において欠くことのできない要素であるという認識の下、当社グループの役員、従業員が適切な行動を選択する際の規範となる「ミネベアミツミグループ行動規範」「ミネベアミツミグループ役員・従業員行動指針」を定め、公正かつ適正で、透明度の高い経営に努めています。



「ミネベアミツミグループ行動規範」および「ミネベアミツミグループ役員・従業員行動指針」の詳細は、こちらをご参照ください。

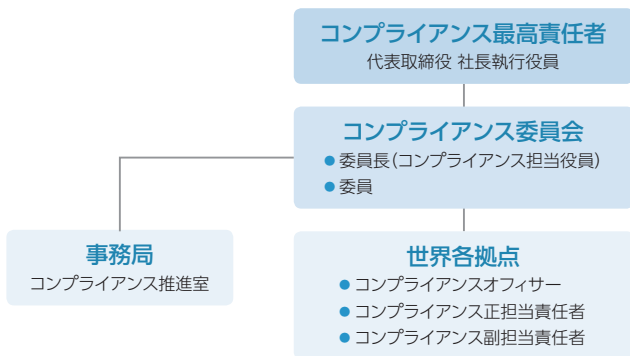
<https://www.minebeamitsumi.com/corp/company/aboutus/Conduct/declaration/index.html>

## コンプライアンス推進体制

ミネベアミツミグループでは、社長執行役員をコンプライアンスの最高責任者とし、直属の組織であるコンプライアンス委員会を年2回開催し、行動規範の運用、行動規範に対する重大な違反事例発生時の緊急対策などについて迅速に意思決定を行っています。また、コンプライアンス委員会の事務局をコンプライアンス推進室が担当し、コンプライアンス推進のための諸施策を実施しています。

また、各拠点にコンプライアンスオフィサーを設置し、グループでのマネジメントの強化を図っています。2018年度は経営統合により新たに加わったセブ工場にて、コンプライアンスオフィサーならびに正・副担当責任者を任命し、グループ全社での体制を強化しています。

### ■ コンプライアンス体制図



## コンプライアンス意識調査

ミネベアミツミグループでは、従業員のコンプライアンスに対する認識を確認するため、コンプライアンス意識調査を隔年で実施しています。

2017年10月から11月にかけて実施した意識調査の結果、コンプライアンスへの意識や関心に問題がないことを確認しています。調査結果を各部門へフィードバックするとともに、結果を受けた研修の強化を実施しています。また、課題となった相談窓口の活用方法について広く周知しています。

今回は2019年度に実施する予定です。

## コンプライアンス教育

ミネベアミツミグループでは、従業員のコンプライアンスへの理解を深めるため、階層別研修や中途採用時のコンプライアンス教育を実施しており、2018年度は364名が受講しました。さらに、独占禁止法(競争法)遵守に関し、取締役・執行役員・事業部長を対象に外部講師を招いた研修を実施し、69名が参加しました。

また、ミツミ電機出身の全従業員2,808名を対象に、コンプライアンスに関する解説と理解度テストを含むe-ラーニング研修を実施しました。

## 内部通報制度

ミネベアミツミグループでは、従業員一人ひとりが自らの行動や意思決定がミネベアミツミグループ行動規範に違反するかどうか迷った場合、または本行動規範に違反する疑いのある行為を発見した場合に利用できる相談窓口を社内と社外にそれぞれ設置しており、匿名で通報することも可能となっています。また、内部通報窓口には監査役が関わっています。

当社グループは、相談者に対して相談したことを理由として不利益な取り扱いを行うことの禁止を「ミネベアミツミグループ行動規範」に明記し、個人情報の保護、守秘義務が遵守されるよう、体制を整備しています。

## 今後のコンプライアンス推進について

従業員一人ひとりがコンプライアンスの意識を持って、事業活動に取り組む企業風土を定着させるために、従業員の意識と知識の充実をより一層深めていく必要があると考えています。今後も教育研修の充実や相談窓口の周知徹底とともに、海外を含めたグループ全体でのコンプライアンス推進体制を強化するために、各国との連携強化を進めていきます。

# リスクマネジメント



## 基本的な考え方

ミネベアミツミグループは、リスクが顕在化した場合、その対応によっては企業経営の根幹に影響を及ぼす恐れがあるとして、リスク管理は極めて重要な施策であると考えています。リスク管理体制や、事前の予防対策、緊急事態発生時の対応などについて定めた「ミネベアミツミグループリスク管理基本規程」を制定し、想定されるさまざまなリスクに備えています。

## リスク管理体制

ミネベアミツミグループでは、社長執行役員をリスク管理の最高責任者とし、「リスク管理委員会」にてリスク管理における重要な意思決定を行っています。予防的な取り組みとして、事前に具体的なリスクを想定、分類し、継続的に監視しています。万が一リスク事案が発生した場合には、「ミネベアミツミグループリスク管理基本規程」に定めた緊急事態の対応区分に応じて緊急対策本部や現地対策本部を設置し、事態への迅速かつ的確な対応を行います。また、リスク事案の内容により、当該事案の担当部署として主管部が任命され、リスク予防対策の立案や実施を行う体制を整えています。

## 情報セキュリティ

### 情報セキュリティ体制

ミネベアミツミグループでは、情報資産を守ることは信頼関係を築く上での責務と考え、「情報セキュリティに関する基本方針」を定め、その徹底に努めています。

また、情報セキュリティ委員会を設け、各国ごとに推進体制を編成しています。

### 情報セキュリティ教育

ミネベアミツミグループでは、従業員の情報セキュリティへの意識向上を目的に、情報セキュリティ教育を実施しています。年1回の情報セキュリティに関する説明会の実施、新入社員や中途採用社員に対する入社時の教育のほか、個別指導を実施しています。2018年度は1年を通じて、情報セキュリティに関する説明会を実施し、派遣社員、協力会社従業員を含む20,692名の従業員が参加しました。

今後も教育を通じて、情報セキュリティに関する禁止事項および遵守事項の確認や、セキュリティ事故につながりやすい注意点などを共有し、従業員の意識向上に役立てていきます。

## 個人情報保護の取り組み

ミネベアミツミグループでは、保有する個人情報について「個人情報保護方針」にのっとり適切に管理するほか、その利用目的を明確にし、利用目的の範囲内での取り扱いを徹底しています。

## BCPの取り組み

ミネベアミツミグループでは、大規模災害、インフルエンザ、テロなどの緊急事態発生時に、従業員やその家族の安全を確保するとともに、世界トップシェアの製品を持つ部品メーカーとして、お客様への供給責任を果たすことが社会的責任であると考え、国内外の主要拠点においてBCP(事業継続計画)を策定し準備、訓練等を行っています。

具体的な活動として、緊急事態対応マニュアルの整備、工場の耐震補強、食料・飲料水の備蓄、自衛消防隊の整備、避難訓練、安否確認システムの訓練などを実施しており、軽井沢工場では地震を想定したBCPの訓練を年に3回実施しています。

また、2018年度は千歳工場とセブ工場において専門機関によるBCPの評価を実施しました。千歳工場については地震を想定したBCPが有効に機能していることを確認し、セブ工場においてもBCP基本計画が策定されていることを確認しています。

さらにタイの複数の部門では、事業継続マネジメントシステムの国際規格であるISO 22301を取得しており、BCP訓練計画を策定し、洪水を想定した訓練を実施するとともに、PDCAのサイクルを回して、継続的な活動と改善を行っています。

## 今後の課題・目標

引き続き、世界の主要拠点でさまざまなリスクに対して対応できるリスク管理体制の確立、定着を目指して取り組みを進めていきます。

# お客様とのかかわり

## 基本的な考え方

ミネベアミツミグループは、社是である「五つの心得」に基づいた「ミネベアミツミグループ品質方針」を掲げ、開発・製造・販売する製品の品質に万全を期し、世界のお客様の信頼に応えるとともに、限りある資源を無駄なく効率的に使用することによって、国際社会の発展に貢献できる「相合」精密部品メーカーとなることを目指しています。

そのために品質マネジメントシステムを構築、実施し、その有効性を常に確認するとともに、継続的な改善に努めています。

## 品質マネジメント

### 品質マネジメント体制

ミネベアミツミグループは、グループ全体を対象とする「グループ品質マネジメント規程」を制定し、製品、サービスの安全性確保と事故の未然防止に取り組んでいます。また、グループ品質マネジメント規程と付随する「グループ製品安全管理規定」「グループ製品含有化学物質管理規定」「重大品質問題処理規定」「グループ紛争鉱物管理規定」「品質保証協定書(標準版)」なども整備し、グループ全体で共有しています。

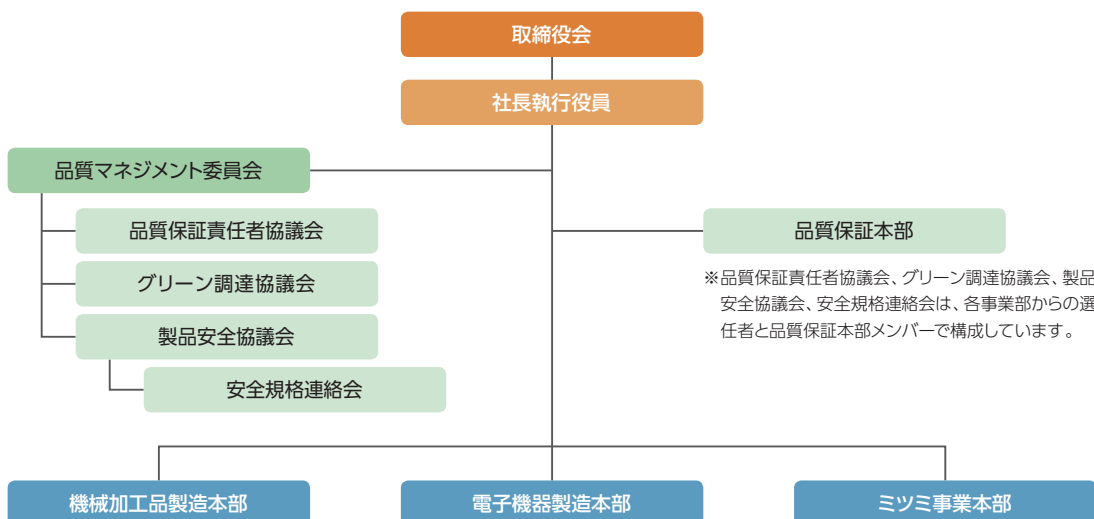
品質マネジメント体制は、最高責任者を社長執行役員とし、その諮問機関として「品質マネジメント委員会」を設置しています。その下位組織として各事業部を代表する品質保証実務責任者による「品質保証責任者協議会」にて、定期的に個別の品質課題の情報共有や、同様の問題について再発防止に取り組んでいます。さらに、「安全規格連絡会」では、電気用品安全法(日本)への対応や、世界各地の安全規格情報の共有・展開を行い、対応を強化しています。

また、今後は単純な部品から、複合化アセンブリ化された最終製品に近い部品もしくは最終製品自体の出荷が増えていくことから「製品安全協議会」を設置し、各事業部からメンバーを選出し、情報交換、勉強会を実施しています。

### リスクアセスメント

ミネベアミツミグループの製品が使われる最終製品の中でも、万が一問題が発生した際に、社会に与える影響が大きい製品に関しては、本部組織と各事業部が協働でリスクアセスメントを実施し、そのリスクの低減を推進しています。

### 品質マネジメント体制







## 品質向上の取り組み

### お取引先様との協力

ミネベアミツミグループでは、サプライチェーン全体でお客様からの品質要求に応えるため、お取引先様に対して、取引基本契約書と品質保証協定書を締結しています。また、品質の幅広い分野に対して当社グループの標準的な要求事項をまとめた「サプライヤー品質保証マニュアル」を提示し、お取引先様に理解と、協力をお願いしています。

### 品質マネジメントシステム認証の取得推進

ミネベアミツミグループでは、各事業部において必要な品質マネジメントシステム(QMS)規格の認証を取得しています。さらに今後の新製品に必要となる規格についても、順次認証取得を進めています。2018年度は、すべての事業部でのISO 9001:2015への移行が完了しました。

また、品質保証本部で内部監査員養成研修を開催し、内部監査員を継続的に養成し、システムの維持・向上を図っています。

### QC検定試験への対応

ミネベアミツミグループでは、従業員個々の品質評価管理能力、改善能力の向上が当社グループの製品品質の向上につながるの考えから、2008年9月より一般財団法人日本規格協会および一般財団法人日本科学技術連盟が主催し、一般社団法人日本品質管理学会の認定を受けている品質管理検定(QC検定)の認定取得を推進しています。また、受検費用負担のほか、全従業員が共有する、品質管理知識向上のためのデータベースより教材を取得・学習できるようにし、事前講習会も年2回実施しています。

2018年度も多くの認定取得者を出しており、グループ累計では、800名を超えました。

### 銘番ラベルの統一とバーコードラベル化

ミネベアミツミグループでは、製品の誤配送防止と確認作業の効率化のため、銘番ラベルの統一とバーコードラベル化による物流管理を2013年度より開始し、旧ミネベア全製品での統一を完了しました。

### 物流品質向上のための見える化

ミネベアミツミグループでは、物流品質を向上するために、物流の見える化を推進しています。納期情報や物流・在庫情報、入在庫情報を整理・分析し、保管拠点や物流方法を最適化しています。

2018年度は海上輸送におけるRFIDタグの試験を行いました。2019年度中には、RFIDタグの試験運用を目指しています。

### 製品に関する情報開示

ミネベアミツミグループが提供する製品は、消費者が手にする最終製品の中に組み込まれている部品がほとんどです。そのため、安全性情報はお客様のご要求に基づき提供しています。また、製品含有化学物質管理では、お客様のご要求に基づき、お取引先様より入手した製品含有化学物質情報を基に伝達しています。

### お客様とのコミュニケーション

#### お客様満足度調査

ミネベアミツミグループでは、各事業部が主体となってお客様満足度調査を実施しています。その評価結果は各事業部の営業部門および開発部門にフィードバックされます。お客様から一定の基準を下回る評価をいただいた場合には、部門横断での改善を検討、実施しています。

### 品質問題への対応

ミネベアミツミグループの製品、サービスにおいて、万が一重大な品質問題が発生した場合には、「グループ品質マネジメント規程」にのっとり、必要な対応を決定しています。

### 今後の課題・目標

今後もさらなる品質向上に向けて取り組みを強化します。具体的には引き続き新しい法令や規格への対応のほか、グループ・サプライチェーン全体での品質マネジメントシステムの強化を進めていきます。

また、物流面については、バーコードラベルやRFIDタグによる最適化を進め、さらなる物流品質の向上に取り組んでいきます。



# 従業員とのかかわり

## 基本的な考え方

ミネベアミツミグループは、創業以来、従業員を最も重要な財産と位置付け、社是「五つの心得」に「従業員が誇りを持てる会社でなければならない」と定めています。当社グループのすべての従業員が健康で、安全に働くことができ、一人ひとりがその能力を十分に発揮できるよう、職場環境の整備、向上に努めています。

### ▶ 従業員数(グループ)

(2019年3月時点)

	従業員	日本人海外駐在員	合計
日本	6,334名	—	6,334名
北米	2,589名	41名	2,630名
欧州	2,532名	41名	2,573名
アジア圏	65,895名	525名	66,420名
合計	77,350名	607名	77,957名

### ▶ 勤続状況(単体)

(2018年度)

平均勤続年数	平均年齢	退職者	離職率
17年3カ月	44歳2カ月	154名	3.82%

### ▶ 時間外労働データ(単体)

(2018年度の平均値)

一人当たりの平均時間外労働時間	10.23時間/月
一人当たりの平均時間外労働手当	22,031円/月

## 多様な人材の活用

グローバルに事業展開するミネベアミツミグループでは、性別や年齢、国籍、障がいの有無などにかかわらず、多様な人材が活躍しています。さらなる人材力の強化を目指し、多様な人材が能力を最大限に発揮できる環境づくりに努めています。

### 女性活躍の推進

ミネベアミツミグループは、多様な人材が活躍することで新たな価値観や競争力を生み、持続的に発展する会社となることを重要な経営戦略の一つと位置付けています。

特に女性活躍推進のために、女性が安心して働ける職場環境を整備するなどの取り組みを進めています。管理職としても活躍できる雇用環境の整備を行うための行動計画を2016年3月に策定しました。行動計画では2021年までに女性管理職の割合を2016年(1.2%)比で2倍にすることを定めています。(ミネベアミツミ2019年3月実績:1.80%)



行動計画

[https://www.minebeamitsumi.com/corp/environment/sociality/employees/2017/\\_icsFiles/afiedfile/2018/01/26/minebeamitsumi\\_action\\_plan.pdf](https://www.minebeamitsumi.com/corp/environment/sociality/employees/2017/_icsFiles/afiedfile/2018/01/26/minebeamitsumi_action_plan.pdf)

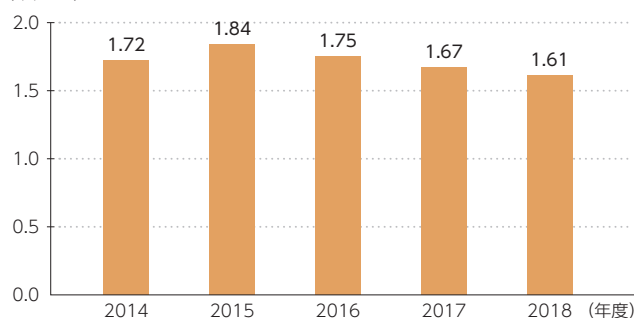
## 障がい者雇用の取り組み

ミネベアミツミでは、障がい者の雇用を積極的に進めるにあたり、事業部門と協働で障がい者が活躍できる職場環境の検討を進めたほか、積極採用に向けて管轄の公共職業安定所や養護学校、障がい者就業・生活支援センター等との連携強化を図っています。2018年6月時点での雇用率は1.61%となりました。今後、法定雇用率(2.2%)の達成を目指してさらに取り組みを強化していきます。

また、障がいの有無にかかわらずすべての従業員がやりがいを持って働けるよう、専門知識のある従業員が指導するなど、職場環境にも配慮した取り組みに努めています。

### ▶ 障がい者雇用率の推移(単体)

(単位:%)



## 65歳定年制の導入

ミネベアミツミでは、全従業員が定年後65歳まで働くことができる再雇用制度を導入し、積極的にシニア従業員の戦力化を図ってきましたが、2019年4月より「65歳定年制」を導入し、ミネベアミツミのほか、国内子会社の定年を65歳に統一しました。これからも従業員が安定して活躍できる環境づくりを整備していきます。

## 人材育成

ミネベアミツミグループでは、企業規模の拡大と加速するグローバル化の中で、ものづくりへの「情熱」を絶やさず、自ら考え、主体的に行動し、さまざまな国籍のチームメンバーと協力しながら目標達成や変革にチャレンジする人材の育成に取り組んでいます。



## チャレンジする人材の育成

ミネベアミツミグループは積極的に海外展開を進めており、海外駐在期間は原則3年から5年というガイドラインに従い、多くの従業員に対しグローバルに活躍する機会を提供しています。2019年3月時点で、607名の従業員が海外に派遣され駐在しています。

海外拠点への赴任者や長期出張者に対する海外赴任前研修を2018年度は計22回実施し、延べ81名が参加しました。赴任後も、現地にてコミュニケーション力の強化を目的に、赴任先の言語や英語学習の支援制度を設けています。

また、全社規模の取り組みとして、隔年でTOEIC試験を開催し、従業員の英語力の把握と向上に向けた各種施策を実施しています。さらに従業員が自ら手を挙げて希望する部署に異動できる公募ローテーション制度を2015年度より導入し、これまで計31名の従業員が制度を利用して、新たな職務に取り組んでいます。

海外のローカルスタッフに対しては、経営の現地化を目指し各法人でも研修を実施しているほか、研修生として日本の工場・本社部門で受け入れ、日本語の習得、日本文化の理解だけでなく、当社コア技術、ものづくりのノウハウやマネジメントの教育を行っています。

## 次世代リーダーの育成

ミネベアミツミグループの持続的な成長の牽引役として、期待する次世代のリーダー層を中長期的な視点で育成することを目的に、研修や強化プログラムを実施しています。

その一環として、米国コロンビア大学ビジネススクールに、客員研究員として従業員を派遣し、多様なバックグラウンドを持つ、学生や研究員との交流を通じ、幅広い知見の習得と、人脈構築、語学力強化、リーダーシップを磨く機会を提供しています。

また、2018年度は将来の経営を担うジェネラリストを育成する事業戦略研修や、経営貢献のできる技術マネージャーを育成する技術経営研修を実施しました。さらに、中国拠点においても次世代経営人材の育成を目的とした次世代リーダー研修を実施しています。こうした取り組みは今後海外のほかの地域でも展開し、次世代の経営層育成を進めていきます。

## 公正な評価

ミネベアミツミグループでは、従業員一人ひとりの能力と実績を、公平性、公正性に最大限配慮した上で適正に評価し、処遇や報酬に反映させています。2017年度には人事考課規定の基準と、昇格基準の見直しを行っており、新制度の説明会を実施し、制度の透明性向上に取り組んでいます。

今後も、意欲ある従業員が能力を十分発揮できる、そして働きがいを感じられる職場環境となるよう、労働環境や雇用構造などの変化にも柔軟に対応できる人事施策を実施していきます。

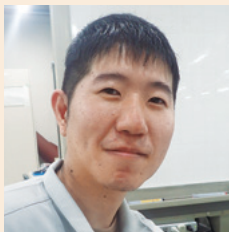
## 人権の尊重

ミネベアミツミグループでは、人種、年齢、性別、国籍、宗教などによる不当な差別を禁止しています。従業員に対しては、新入社員研修において「ミネベアミツミグループ役員・従業員行動指針」を用いた研修を実施しているほか、海外へ赴任する従業員に行う赴任前研修や、各階層別研修の中でハラスメント防止に関する教育を実施しています。さらに、内部通報制度ならびに相談窓口を設けることで、人権侵害防止に取り組んでいます。

また、最大の拠点であるタイでは、労働方針において強制労働、児童労働などの人権侵害を禁止するとともに、罰則を設けているほか、タイの労働保護基準であるTLS 8001-2010の認証を取得しています。

### VOICE

## 公募ローテーション制度を経験して



ステッピングモーター事業部  
ステッピングモーター製造部  
PM車載品質管理課

大矢 章仁

2015年度から始まった公募ローテーション制度に応募し、マテリアルサイエンスラボ浜松(現:応用解析技術課)からステッピングモーター事業部PM車載品質管理課へ異動しました。以前の部署では化学分析機を使用し、各事業部から依頼されてくる不良解析や材料分析が主な業務でした。本制度に応募した理由は、不良の原因を考察していく中で「自分の考えは正しかったのか?」「ちゃんと改善に

結び付けてもらえたのか?」という疑問を感じるようになったためです。事業部に籍を移してからは、実際の現場で起きるさまざまな問題を自分で分析し、改善まで見届けるようになりました。製造業務にかかわることで、当初の疑問は解消されましたし、分析者と現場で異なる考え方に気付くこともできました。そして何より、試行錯誤を繰り返しながら、自分たちの製品を改良していく作業は、とてもやりがいのある仕事だと知ることができました。現場ではまだまだ課題が散在していますので、2つの職場を経験した自分の強みを生かして貢献していきたいと思っています。



## 働きやすい職場環境への取り組み

### 労使関係

ミネベアミツミグループでは、「ミネベアミツミグループ行動規範」に示すように、結社の自由を認め、労働環境や労働条件といった課題について、定期的(年2回以上)に労使懇談会を行うなど労働組合や従業員代表などと積極的にコミュニケーションを図り、良好な労使関係を築いています。

### 多様な働き方の推進

ミネベアミツミグループは従業員のワークライフバランスへの配慮が、従業員のやりがいや充実感につながる、重要な課題であると考えています。そのため、出産・育児、介護などのさまざまなライフイベントに柔軟に対応できる制度を設けています。

2017年度には、育児短時間勤務の制度を見直し、子どもが小学校3年修了まで利用できるように変更しました。今後も、従業員が働き方を柔軟に選択できるよう、制度の充実に努めます。

### ■ 主な福利厚生制度と利用者数(国内グループ) (2018年度)

制度名	内容	延べ利用者数
育児休業制度	育児休業および育児短時間勤務の制度	107名
配偶者出産休暇制度	配偶者の出産時に取得可能な休暇制度(延べ2日まで)	60名
介護休業制度	介護休業および介護短時間勤務の制度	2名
入社30年以上永年勤続者の旅行招待制度	勤続30年の従業員と家族への旅行券贈呈	151名

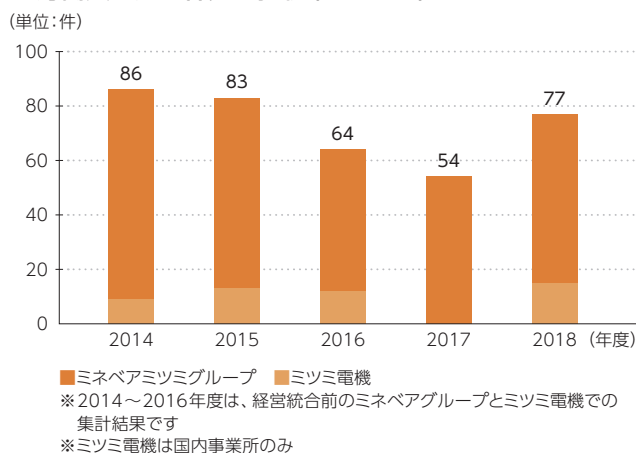
## 安全衛生管理

ミネベアミツミグループでは、製品・サービスの質、生産の一貫性、および従業員のモラル向上は、安全で衛生的な職場環境において実現すると考えています。

各工場では、安全作業や衛生などの各部会からなる安全衛生委員会を定期的開催し、各部会の目標に対する活動結果を共有しています。また、当社グループの量産拠点であるタイ、中国、シンガポール、フィリピン、マレーシアの主要工場ではOHSAS 18001の認証を取得しています。

万が一、火災、労災、交通事故などが発生した場合には、安全管理責任者を中心に原因の把握や適切な対応が取られるとともに、それらの情報を全世界の事業所と共有し、類似事故の再発防止に役立てています。

### ▶ 労働災害発件数の推移(グループ)



### 工場における定期安全パトロールの実施

軽井沢工場をはじめとした各工場では、月に1度の定期的な安全パトロールを実施し、前回の指摘事項の確認や新たな改善点の確認をしています。この安全パトロールにより、製造機器周辺の整理整頓や危険個所の確認と改善依頼、工具の適正保管、保護めがねや耳栓の使用などの徹底を図っています。



安全パトロールの様子



安全パトロールの様子  
(NMBミネベア・タイ)

## 今後の課題・目標

今後は引き続きますます多様化、グローバル化する働き方、人材へ対応する仕組みの構築、また、その職場環境を整えることを大きな責務と考え取り組みを推進していきます。

また、将来にわたるグローバルな会社の成長を可能とするため、グローバルに通用する人材の育成とノウハウの継承、多様性を生かせる環境整備などの人事施策の実施に継続して力を入れて取り組んでいきます。



# お取引先様とのかかわり



## 基本的な考え方

ミネベアミツミグループの事業は多くのお取引先様との関係に支えられています。当社グループでは「資材調達基本方針」を定め、これに基づき健全なパートナーシップを築いています。また、サプライチェーンを通じたCSRを推進するため、お取引先様には「ミネベアミツミグループCSR調達ガイドライン」を配布し、理解と協力をお願いしています。



「資材調達基本方針」および「ミネベアミツミグループCSR調達ガイドライン」の詳細は、こちらをご参照ください。

<https://www.minebeamitsumi.com/corp/company/procurements/index.html>

## CSR調達

ミネベアミツミグループでは、グローバルに事業を展開する上で、サプライチェーン全体でのCSRの推進が重要と考え、2012年3月に、「ミネベアミツミグループ行動規範」を基にした「ミネベアミツミグループCSR調達ガイドライン」を策定し、CSR調達の枠組み構築に取り組んでいます。

また、お取引先様のCSR推進状況を把握することを目的に、「ミネベアミツミグループCSR調達推進自己チェックシート」を策定し、お取引先様に回答をお願いしています。2018年度はミツミ電機の国内主要お取引先様を対象に実施し、630社のお取引先様に回答いただきました。回答結果はお取引先様に対してフィードバックしているほか、一部取り組みに課題の見られたお取引先様に対しては個別にコミュニケーションを取ることで、取り組み状況を詳細に確認しています。

## お取引先様の選定

ミネベアミツミグループでは、新規に取引を始める際に、お取引先様に対して当社グループの資材調達への考えに賛同いただくとともに、資材調達基本方針を遵守するために新規取引業者の認定基準にのっとった確認を行っています。具体的には、継続的な取引が可能であること、当社グループの製品含有化学物質に関する要領および基準などを遵守できること、「ミネベアミツミグループCSR調達ガイドライン」に賛同できることなどの確認を行い、必要に応じて工場の監査も実施しています。

## 下請法への対応

ミネベアミツミグループでは、お取引先様と対等、公正な取引関係を築くことを目指し、2018年度、国内の事業所を

対象に下請法に関する自主監査を実施しました。監査により状況の確認を行うとともに改善に努めています。

また、下請法の理解推進を目的に各事業所で下請法研修を実施しました。2018年度は776名の関係者が受講しました。



下請法研修の様子

## グリーン調達

ミネベアミツミグループでは、化学物質に関する各国の法令・規則への対応、お客様の満足度向上や環境負荷物質の削減を目的として、製品含有化学物質に関する要領および基準書を作成・改訂し、お取引先様に対して有害物質を含まない製品(原材料、部品、部材および包装、梱包材料)の提供と、証明書や分析結果報告書などの資料の提出をお願いしています。

2018年度は、グリーン調達管理要領の説明会を中国とマレーシアで実施し、182社303名のお取引先様に参加いただきました。

## 「紛争鉱物」への対応

2012年8月に米国証券取引委員会にて採択された「金融規制改革法」の開示規則を受け、同法律にて規定されたコンゴ民主共和国および隣接諸国で産出された「紛争鉱物」に対するミネベアミツミグループの考えをまとめ、2012年10月「ミネベアミツミグループ紛争鉱物対応ポリシー」を制定しました。さらに、「ミネベアミツミグループCSR調達ガイドライン」についても「紛争鉱物対応」について追加し、お取引先様に対して対応を要請しています。

また、お客様からの調査依頼については、引き続き調査用データベースを用いた回答を実施しています。

## 今後の課題・目標

サプライチェーンを通じたCSRの推進に向けて、グローバルなCSR調達の枠組み構築を進めています。

2019年度はミツミ電機の海外の主要お取引先様に「ミネベアミツミグループCSR調達推進自己チェックシート」を配布・回収し、現状を確認していきます。

# 地域社会・国際社会とのかかわり

## 基本的な考え方

ミネベアミツミグループはグローバルに事業を展開する企業として、地域社会との十分なコミュニケーションにより、健全なパートナーシップを構築していくことが重要であると考えています。地域に根差した企業であるために、「五つの心得」を基本に、地域のニーズに合った社会貢献活動を実施しています。

## 国際社会への貢献

### メキシコでの取り組み

#### 職業訓練の支援

ミツミ オートモーティブ メキシコでは、近隣の職業訓練校と提携し、学生の技術向上を支援しています。

職業訓練校と工場のどちらでも学ぶことができるデュアルプログラムを協力を提供しており、工場のあるサンルイスポトシ州における日系企業では当社のみで、かつ最多の約50名の学生を従業員として採用しており、学校関係者および保護者から非常に高い評価を受けています。学校で学ぶだけでなく、実地経験を積むことで、学生の社会人へ向けての自己成長および技能向上など学びの定着に貢献しています。



職業訓練校の学生

### 中国での取り組み

#### 地域発展に向けた支援活動

ミネベアミツミグループの中国各工場では、地域社会の発展のためのさまざまな支援活動を行っています。

福祉施設のお年寄りや貧困家庭の子どもたちに対する支援物資の寄贈や寄付とともに、従業員が伺って地域の方々と親交を深めています。また、台風・洪水や地震などの自然災害があった地域においては、復興を早めるために従業員が寄付を集めたり、被災地の清掃活動を行っています。ほかにも献血活動を行うなど、地域発展のためにさまざまな活動を行っています。



敬老施設を訪問したミツミ電機青島工場の従業員

### カンボジアでの取り組み

#### サッカー代表チームの支援

ミネベアカンボジアでは、カンボジアサッカー代表チームのオフィシャルパートナーとなり、カンボジアサッカー連盟とスポンサーシップ契約を2019年6月に締結しました。

カンボジアで最も人気のあるスポーツの一つであるサッカーと、カンボジアサッカー代表チームの国際舞台での挑戦・活躍をサポートすることで、カンボジアの経済を支えている若者たちのさらなる成長を支援していきます。



カンボジアサッカー代表チームユニフォーム

### タイでの取り組み

#### コミュニティの活性化支援

2018年10月、NMBミネベア・タイは近隣のショッピングセンターと共同でロッブリ工場前に歩道橋を新設しました。

歩道橋は車の通行量が多い6車線の幹線道路をまたぐもので、横断に危険のある場所にかかけられました。この企画は、2016年に亡くなったプミポン国王の追悼事業の一つとして地域の方と協力して実施しており、従業員だけでなく地域の方の生活の安全に貢献することができました。



竣工式典の様子

## 地域社会への貢献

### 震災復興支援

東日本大震災に対する育英基金として、「公益信託ミネベアミツミ東日本大震災孤児育英基金」を設立し、小学生から中学生までの孤児に対して、毎年10万円、中学卒業時に30万円返済義務のない育成支援金を支給しています。毎年3月には、支援している中学3年生の子どもたちを東京に招いて、従業員サポーターとともに卒業のお祝いを行っています。





## 従業員サポーターとして参加して

VOICE



国内営業部  
カスタマーサービスセンター  
東京カスタマーグループ  
植村 紀子

資金支援だけでなく子どもたちの心に届く支援だと知り、サポーターとして参加させていただきました。初めて会った瞬間は緊張で表情の硬い子どもたちも次第に笑顔が増え、2日間元気いっぱい楽しんでくれていました。春からの新生活にたくさんの期待や夢を話してくれた時はとても嬉しかったです。

企業として今後も国内外問わず子どもたちへの支援を持続可能にするため、一従業員として努力していきたいと思っています。

## ごみゼロ活動

ミツミ電機多摩事業所は、2018年5月30日のごみゼロの日に合わせ、周辺エリアの清掃活動を行いました。

毎年、趣旨に賛同する周辺企業と協力して行うもので、2018年度はこれまでよりも1社増えた6社の協力を得て実施しました。当日は、早朝から従業員15名が4チームに分かれ、空き缶、ペットボトル、吸い殻などを回収しました。2018年には東京都多摩市より「多摩市まちの環境美化条例」に基づく表彰を受けました。



参加者

## 認定NPO法人あさまハイランドスポーツクラブへの支援

軽井沢工場では、アマチュアスポーツ振興として、認定NPO法人あさまハイランドスポーツクラブへの寄付を通じて、カーリングを支援しています。寄付金は大会の開催や、ジュニアチーム、車いすチームの支援に活用されています。



カーリング大会(ミネベアミツミカップ)の様子

## スポーツイベントの協賛

米子工場は、地域発展を目的に米子市民レガッタを毎年支援しています。第50回記念大会となった2018年は、特別イベントの中国五県対抗レースをミネベアミツミ杯として開催しました。

一般参加のレースは合計88チームが出場し多くの方がレガッタを楽しみました。また、米子工場からも5チームが参加し、各カテゴリーで1~3位の好成績を収めることができました。



ミネベアミツミ杯の授与式の様子

## 地域の方々と定期懇談会

軽井沢工場と米子工場では、地域の方との対話を継続するため、定期的に懇談会を実施しています。

軽井沢工場では、年2回、地域の方と話し合いの機会を持っています。2018年は5、11月にそれぞれ第11、12回懇談会を開催しました。懇談会では、防災計画および災害対応訓練、地域振興、道路補修など、幅広い内容について意見交換を行いました。

米子工場では、2018年10月、第4回懇談会を開催しました。当日は、伊木米子市長をはじめ4名の方にお越しいただき、米子市の活性化、定住促進、雇用など、さまざまなテーマについて意見交換を行いました。



米子工場での懇談会の様子

## 今後の課題・目標

今後も国内外の地域貢献活動に積極的にかかわり、地域社会との信頼関係を深め、共に継続的に発展していける企業を目指していきます。

# 株主の皆様とのかかわり

## 適時開示／ディスクロージャーポリシー

ミネベアミツミは、法律・法令に沿って適時、適切な情報開示を行うとともに、ディスクロージャーポリシーを定め、積極的な情報開示に努めています。

## 株主の皆様とのコミュニケーション

### 株主総会の実施など

ミネベアミツミは、定時株主総会を毎年6月に開催しています。また、年2回報告書を株主の皆様へ送付することにより、当社の経営状況や方針などについての理解を深めていただけるよう努めています。

### 機関投資家とのコミュニケーション

IR活動においては、公正な株価の獲得を目標に、「経営トップ自らによる積極的なIR活動」「フェアでタイムリーな情報開示でサプライズを軽減」「一方的ではなく双方向の対話」を基本方針として取り組んでいます。

当社役員は、毎四半期に実施している機関投資家・アナリスト向け決算説明会のほか、海外ロードショーやIRカンファレンスなどに積極的に参加し、投資家と直接対話することを重視しています。機関投資家向けには、当社の強さの源泉である非財務の競争力などをご理解いただくために、海外工場視察会を実施しています。視察会では、参加された方々に超精密機械加工技術・大量生産技術をはじめとする当社の強みや、経営統合を通じたミツミ事業の生産性改善を実感いただけるようにしています。

フェアでタイムリーな情報開示の観点から、IR資料は基本的にすべて日本語と英語を同時に開示しています。また、決算説明会は同時通訳付きでライブで動画配信し、さらに質疑応答も含めたスクリプトをホームページ上で開示しています。

2018年度からは統合報告書を発行しています。これまでアニュアルレポートで伝えてきた財務・戦略情報に加え、より中長期的な視点での当社グループの考えと、それに紐づく重要な非財務情報を「価値創造ストーリー」としてまとめています。

## 株主の皆様への還元

ミネベアミツミは、経営環境を総合的に勘案し、継続的に安定した利益配分を維持しながら、株主資本の効率向上と株主

の皆様へのより良い利益配分を第一義とし、業績をより反映した水準での利益還元をはかることを基本方針としています。

2019年3月期は、売上高、営業利益、当期利益のいずれも過去最高を更新しました。これはボールベアリングを中心とした収益性の向上に加え、自動車・航空機向けビジネスの成長によるものです。これを受け、通期合計で1株当たり28円の配当を実施しました。

また、株主還元および資本効率の向上と経営環境に応じた機動的な資本政策を遂行することを目的として、自己株式の取得を行っています。2019年3月期には、計630万株を約106億円で取得しました。

これらの結果、総還元性向は約37%となりました。

## 外部評価

ミネベアミツミの積極的なIR姿勢が評価され、2018年度、IR活動、IRサイトならびに統合報告書について以下の表彰・評価を受けました。

- 日本IR協議会 IR優良企業特別賞
- 大和IR インターネットIR 最優秀賞
- 日興IR 2018総合ランキング 最優秀サイト受賞
- 日興IR 2018業種別ランキング 優秀サイト受賞
- GPIF(年金積立金管理運用独立行政法人)の国内株式の運用を委託している17の運用機関が選ぶ「優れた統合報告書」、「改善度の高い統合報告書」に選出



## 今後の課題・目標

今後もIR活動の充実により、株主の皆様とのコミュニケーションの場を広げ、より多くの株主、投資家の皆様とミネベアミツミへの理解を深めていただけるよう取り組んでいきます。

特に、近年のESGに関する関心の高まりを受け、2018年度より発行している統合報告書を活用し、非財務情報を含めたコミュニケーションをより充実させていきます。



「ミネベアミツミグループ統合報告書」はこちらをご覧ください。  
[https://www.minebeamitsumi.com/corp/investors/disclosure/integrated\\_report/index.html](https://www.minebeamitsumi.com/corp/investors/disclosure/integrated_report/index.html)

# 環境マネジメント

## 基本的な考え方

ミネベアミツミグループは、「ミネベアミツミグループ環境方針」の下、環境マネジメントシステムを構築し、グループ全社にて地球環境保護および人類の持続的な発展に貢献するよう努めています。

その具体的な取り組みとして、エネルギー効率の高い設備、プロセスを採用し、グループ全体のCO<sub>2</sub>排出量を基準年2015年度から2020年度までに生産高原単位で15%削減する計画です。

2018年度は、基準年2015年度に対して生産高原単位で9%のCO<sub>2</sub>排出量削減を目指しましたが、残念ながら1.5%の削減に留まりました。経営統合によりCO<sub>2</sub>排出量が増加したに加え、為替が生産高に与えた影響の大きさが排出量削減の取り組み効果を上回ったためです。

また、原材料、水などの資源を有効に活用するため、工場からの廃棄物、排水が最小限となるよう、取り組みを強化しています。同時に、高効率モーター、高効率照明、高効率エネルギー変換デバイス、およびビル、工場、都市住環境のスマート化に欠かすことのできない通信制御技術やセンサー、新素材の開発などにも積極的に取り組み、製品を通じた環境への貢献を進めています。

## 環境マネジメントシステム

### 環境マネジメント体制

ミネベアミツミグループでは、「ミネベアミツミグループ環境方針」を実践するために、取締役会、社長執行役員をトップとした環境マネジメント体制を構築しています。全体の推進組織として、役員を中心とした環境マネジメント委員会と実務者によるグループ環境対策委員会を設置し、環境政策について迅速に対応できる体制としています。また、各事業所に事業所環境管理総括責任者と環境管理責任者を配し、工場、事業所ごとに具体的な環境保全活動を推進しています。

### ISO 14001 認証

ミネベアミツミグループでは、世界中の主要拠点においてISO 14001の認証取得を推進しています。新設工場や新たに当社グループに加わった工場なども、認証取得計画に基づき環境マネジメント活動を開始します。2019年度は販売子会社のエヌ・エム・ビー販売株式会社が認証取得を目指します。



ISO 14001の外部認証審査(2018年9月タイ)



## 環境教育

### 基本的な考え方と2018年度の取り組み(日本)

ミネベアミツミグループでは、一人ひとりの環境意識を高めるため、新入社員や中途採用社員、研修生、海外駐在からの帰国者などに対して環境マネジメント基礎教育を実施しています。

また、すべての従業員を対象にして、「ミネベアミツミグループ環境方針」や各事業所の環境目標、実施計画などの環境マネジメント教育や廃棄物の分別教育、緊急事態への対応訓練などを実施しました。

## 生物多様性保全への取り組み

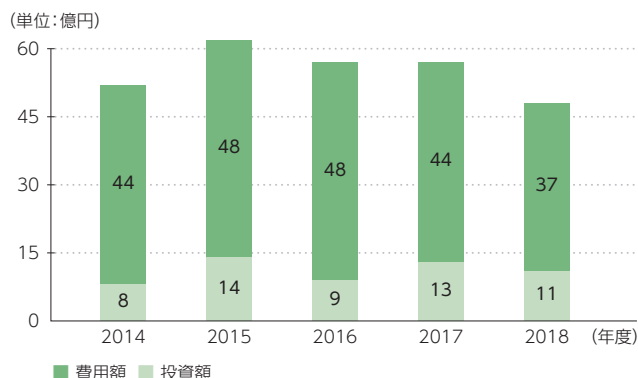
### 基本的な考え方

ミネベアミツミグループは、「ミネベアミツミグループ環境方針」の「国際社会への貢献」において、当社グループの事業活動が自然界の生態系や生物多様性に影響を与える可能性を認識し、自然界の保護に努めることを表明しています。

## ミネベアミツミグループの環境会計

ミネベアミツミグループは、環境保全対策へのコストを認識するため、環境省が発行する「環境会計ガイドライン2005年版」を参考に、環境会計の集計を行っています。当社グループの2018年度の環境保全コストの総額は4,852百万円で、2017年度と比較して約16%減少しました。

### 2014年度～2018年度の環境保全コストの推移





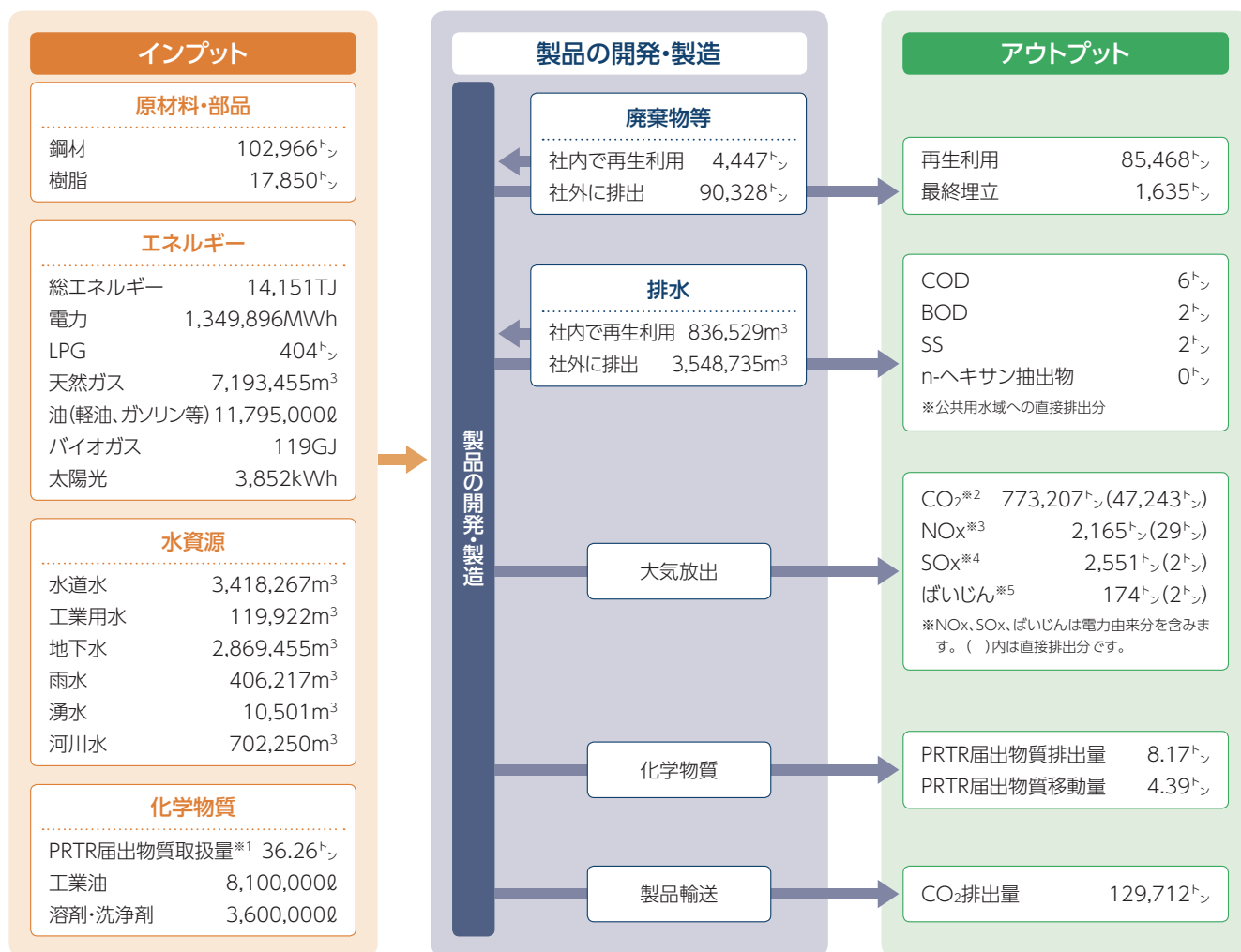
## ミネベアミツミグループの環境負荷

ミネベアミツミグループは、世界22カ国に83の製造拠点を有し、主力のベアリングをはじめとする機械加工品、電子機器、回転機器など、多様な製品を生産、販売しています。環境負荷を売上高の生産地域別比率から見た場合、当社グループは日本を除くアジア地域で約8割を消費、あるいは排出しています。

2018年度は、前年度と比較して総エネルギー量はほぼ同量、工業油は約17%増加し、溶剤・洗浄剤も16%増加しました。

2018年度の当社グループの環境負荷は以下のとおりです。

## ■ インput・アウトプット(2018年度実績)



※1 PRTR物質：PRTR法(化学物質排出把握管理促進法/日本国内法)により排出量・移動量を把握し、届け出ること定められた化学物質。記載した数値は行政に届出した量  
 ※2 CO<sub>2</sub>：二酸化炭素  
 ※3 NO<sub>x</sub>：窒素酸化物  
 ※4 SO<sub>x</sub>：硫黄酸化物  
 ※5 ばいじん：燃焼、加熱および化学反応などにより発生する排出ガス中に含まれる粒子状物質



# 地球温暖化防止の取り組み

## 基本的な考え方

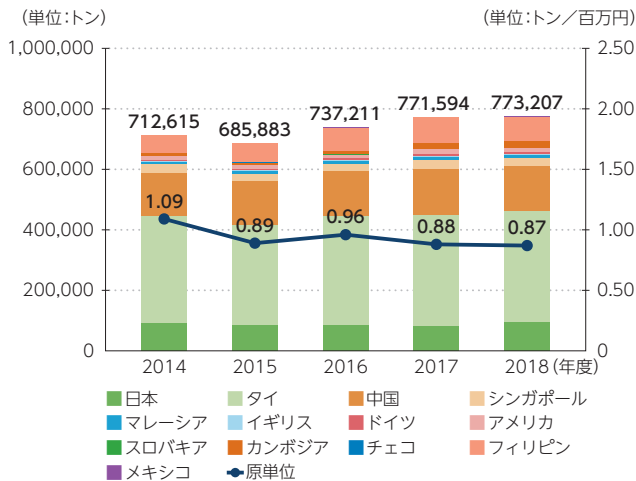
ミネベアミツミグループは、世界規模での課題となっている地球温暖化問題と、その影響によるエネルギー価格の上昇や異常気象の発生などが、事業活動の継続にも大きな影響を与えると考えています。

当社グループでは、地球温暖化防止に取り組むため、各事業所で積極的に省エネルギー対策を進めています。

## 2018年度の取り組み結果

2018年度のミネベアミツミグループ全体のCO<sub>2</sub>排出量は773,207トンで、2017年度と比較してほぼ同量でした。一方、生産高原単位によりCO<sub>2</sub>排出量をとらえた場合は、0.87トン/百万円で、2017年度より1%減少しました。

### CO<sub>2</sub>排出量推移(総量&原単位)



## 事業所における取り組み

### 「事業活動温暖化対策計画書制度 優良事業者」として表彰(日本:軽井沢工場)

軽井沢工場は、長野県から積極的に温室効果ガスの排出量削減に取り組んでいる企業として表彰されました。

長野県の地球温暖化対策条例に基づき、一定規模以上の企業に温室効果ガスの排出抑制計画の提出を義務付けており、計画内容や具体的な取り組み結果を基に評価されたものです。



### 環境フェアの開催(中国:上海工場、西岑工場)

上海美蓓亚精密机电有限公司は2018年10月27日に同社として初めてとなる環境フェアを開催しました。

従業員にCSR、環境、安全、3Rの各活動について理解を深

めてもらうことを目的として、工場の立地する青浦区の会場を借り、家族にも参加いただけるよう演芸会と一緒に催されました。会場外ではCSR、環境、安全、3Rの各部会のブースが設けられ、それぞれの活動ポスターを掲示しました。

イベントと合わせた効果もあり、フェアにはたくさんの人が訪れました。また、イベントに参加できなかった従業員のために当日各ブースに掲示されたポスターは、フェア終了後に工場内に掲示しました。



環境フェア



会場外の展示ブース

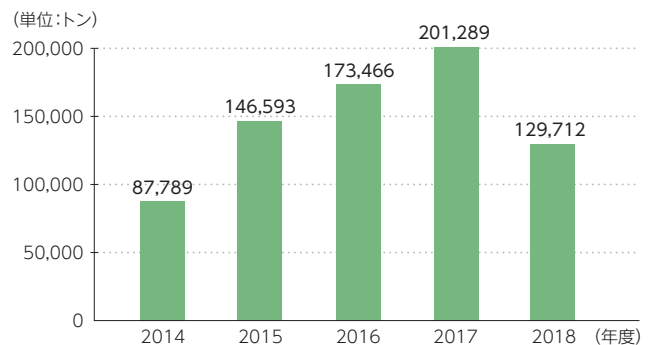
## 物流部門の取り組み

### 物流のCO<sub>2</sub>排出量

ミネベアミツミグループは自社の直接のCO<sub>2</sub>排出であるスコープ1(ガス、石油)、スコープ2(電気)のCO<sub>2</sub>排出量に加え、スコープ3(輸送・流通)となる物流(製品輸送)のCO<sub>2</sub>排出量の把握に取り組んでいます。

2018年度のミネベアミツミグループの製品輸送によるCO<sub>2</sub>排出量は129,712トンで、2017年度と比較して36%減少しました。

### 物流のCO<sub>2</sub>排出量



## 今後の課題・目標

ミネベアミツミグループでは、今後も引き続き地球温暖化防止に向けて取り組みを進めていきます。

2020年、2030年といった将来の長期的な展望としては、IPCC(気候変動に関する政府間パネル)や各国の政策などを注視し、対策を進めていきます。

# 資源の有効活用の取り組み

## 基本的な考え方

ミネベアミツミグループの製品に欠かせない金属、プラスチックなどの原材料や、エネルギー源となる石油、天然ガスなどは、その埋蔵量に限りがあります。また、電子機器製品に不可欠なレアアース(希土類元素)は、産出国に限られるため、輸出制限などを受けやすくなっています。

当社グループでは、事業活動の継続のためには資源の有効活用が重要であると考え取り組んでいます。

## 2018年度の取り組み結果

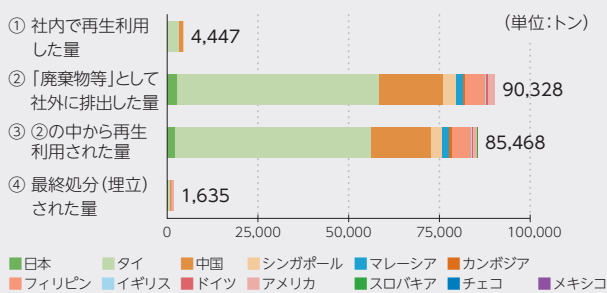
2018年度にミネベアミツミグループ全体で使用された主な原材料は、鋼材:約102,966トン、樹脂:約17,850トンで、合計量は2017年度と比較して約2%増加しました。

一方、当社グループから社外に排出された後、最終処分(埋立)された廃棄物量は1,635トンでした。2017年度と比較した場合、2018年度は56トン増加しました。

また、当社グループではタイや中国の量産工場において、工場内で発生した排水を可能な限りリサイクルし、工場外に排出しない「工場排水ゼロシステム」を運用しています。

2018年度の当社グループにおける工場排水量は3,548,735m<sup>3</sup>で2017年度と比較して59,391m<sup>3</sup>の増加となりました。

### ■ 廃棄物等処理実績 (2018年度実績)



## 事業所における取り組み

### 建て替え工事で発生した廃材の再利用 (日本:秋田事業所)

秋田事業所では、社屋建て替え工事に伴い、旧建屋の基礎コンクリートを細かく粉砕して敷地の敷石として再利用をしています。新社屋(3階建て)は2020年2月に完成予定です。



コンクリートをガラパゴス粉砕機で粉砕 (2018年9~8月)



敷石として再利用(白い部分) (2018年9~10月)

## 廃プラスチック削減アクション(カンボジア)

社会インフラ・教育制度が十分に整わず、ゴミ収集、分別、廃棄などが大きな社会問題となっているカンボジアにおいて、カンボジア工場では、同国内においていち早く食堂のプラスチック廃棄物を削減する取り組みを開始しました。

約9,000名にのぼる現地従業員が高い環境意識を持ってボトムアップで対策を進め、従来の食堂で使用していたフルーツの使い捨てのビニール袋による販売を、2019年3月より再利用可能なプラスチックプレートでの販売に変更し、1カ月当たり約16万枚、重量にして312kgのビニール袋を削減しました。今後は竹製のバンブーストローや再利用可能なプラスチックカップの導入も検討し、1カ月当たり10万個のプラスチック廃棄物を一層削減する計画です。

プラスチック廃棄物はG20大阪サミット(2019年6月開催)でも重要テーマの一つに挙げられ、世界的な社会課題となっています。ミネベアミツミはカンボジアでの成功例をグループ全体で共有し、約10万人の従業員が一丸となり、廃プラスチック削減に取り組んでいきます。



ビニール袋での販売

再利用可能なプラスチックプレートでの販売

## 今後の目標・課題

2019年度の廃棄物の最終処分量目標は、「生産高原単位で2015年度比12%削減」として取り組みを進めます。

また、現在、埋め立て処分されている廃棄物の性状調査や市場分析などにも取り組み、今後より一層の削減を目指します。

# 環境負荷物質削減の取り組み

## 基本的な考え方

工場からの排気・排水による万一の水質汚濁、大気汚染や土壌汚染などは、周辺の地域社会にとって脅威になります。ミネベアミツミグループでは、地域との共存が事業活動において不可欠であるとの考えから、環境負荷物質の削減に取り組んでいます。

## 2018年度の取り組み結果

ミネベアミツミグループでは、各国、各地域の環境法令を遵守するために、工場排水などにおいては、国や周辺地域の法令基準を上回る自主基準値を設定し、監視を行っています。

また、漏洩や異臭、騒音、振動など周辺地域に迷惑をかけないように、当社グループのすべての工場環境パトロールを実施しました。

## 事業所における取り組み

### 工場排水の浄化

ミネベアミツミグループでは、排水を河川に放流する際、工場保有の排水処理設備で基準値内まで浄化しています。また、各国および所在地域の法令に従って、排水中のpH<sup>※1</sup>、COD<sup>※2</sup>、BOD<sup>※3</sup>、SS<sup>※4</sup>、ノルマルヘキサン抽出物質<sup>※5</sup>などを定期的に測定し、自主的に工場排水の監視を行っています。

- ※1 pH(ピーエッチ):酸性がアルカリ性を示す尺度。pH7が中性。7より小さいほど酸性が強く、7より大きいほどアルカリ性が強い
- ※2 COD(化学的酸素要求量):水中の有機物(汚れ)を酸化剤によって酸化するのに消費される酸素量。BOD測定と比べ短時間に測定できるが、信頼性は劣る。CODは一般的に海、湖沼への排水管理に用いられる
- ※3 BOD(生物化学的酸素要求量):水中の有機物(汚れ)を微生物が分解するとき必要とする酸素量。BODが大きいほど水質は悪い測定に数日を要する。BODは一般的に河川への排水監視に用いられる
- ※4 SS(懸濁物質):水中に浮遊している物質の量。数値が大きいほど水質汚濁が著しい
- ※5 ノルマルヘキサン抽出物質:水に含まれる揮発しにくい油や洗剤などを、ノルマルヘキサンという薬品で抽出した物質。当報告書では鉱油量を表す

### 海外工場の環境パトロールの実施(タイ、中国)

ミネベアミツミグループでは、日本のグループ環境管理部メンバーが定期的に海外工場を訪問し、現地の環境管理メンバーと合同で環境パトロールを実施しています。

2018年度は、タイ、中国の各工場での環境パトロールを実施しました。



タイ・ロップリ工場の排水処理設備



中国・西岑工場の樹脂乾燥設備

## 廃棄物処理場の視察(日本、タイ)

各工場、事業所から排出される廃棄物には、それぞれの工場、事業所内で再使用、再利用が難しいものがあります。こうした廃棄物は廃棄物処理業者に委託し、処分しています。

ミネベアミツミグループでは、信頼できる処理業者を選定し、処分を委託するとともに、定期的に処分場へ行き、その処理、管理状態などの視察もしています。廃棄物の処理工程において、土壌、水質、大気などへの環境汚染を引き起こさないよう、今後も処理業者と協力し、取り組んでいきます。

2018年8月7日、日本のグループ環境管理部とタイの環境エネルギー委員会およびロジャナ工場、バンワ工場の代表者がタイの産業廃棄物、リサイクル会社の現地視察を行いました。



日本のグループ環境管理部およびタイ環境管理メンバーによる廃棄物処理場の視察



## 今後の目標・課題

ミネベアミツミグループは、引き続き国内外の環境法令を遵守した事業活動を行うとともに、過去に発生させた環境汚染について、対策を進めていきます。



# 製品における環境への取り組み

## 基本的な考え方

ミネベアミツミグループは、「信頼性が高く、エネルギー消費の少ない製品を安定的に供給し、広く普及させる」ことを通して、地球環境および人類の持続可能な発展に貢献していくことをCSR基本方針に掲げています。

当社グループの製品は、さまざまな最終製品に組み込まれるもの(部品)だからこそ、有害な環境負荷物質を含まない安全なものであることや、省エネルギー、省資源、長寿命といった、ライフサイクル全体で環境に貢献する配慮が重要であると考えます。

環境貢献型製品の創出は、当社グループのマテリアリティ(重要課題)に設定されています。

## ミネベアミツミグループの環境貢献型製品

世界で使用される電力の約40%はモーターが、約25%は照明が占めています。ミネベアミツミグループでは、こうした製品の高性能化、高効率化がエネルギー使用量削減に与えるインパクトは大きいと考え、性能、品質の向上に努めています。

また、当社グループが生産、販売する製品は、開発・設計段階から各国の環境法令やお客様の環境要求事項に従うだけでなく、自主的に製品含有化学物質調査や製品アセスメントなどを行っています。

当社グループは、2019年度よりこれら開発製品を「ミネベアミツミグリーンプロダクツ」としてまとめ、公表していきます。

### SALIOT LEDスポットライト MS-V7(追尾機能付き)

ミネベアミツミは超薄型導光板の技術を活かしたLED照明用の超薄型レンズで照明業界に一石を投じました。さらに、この超薄型レンズに代表される光学技術と、モーター・電源・無線と複数の異なる製品と技術を集約したのがこのSALIOTです。

SALIOTは狭配光ならびにグレアレス化<sup>\*1</sup>により無駄な光を削減し、従来品(他社品)<sup>\*2</sup>に比べ約66%のCO<sub>2</sub>排出量を削減しました。

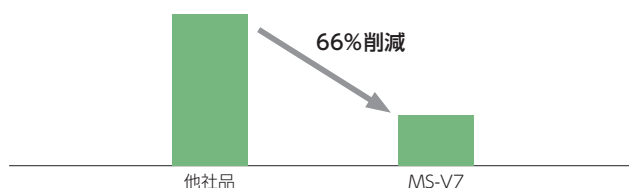


SALIOT LEDスポットライト MS-V7  
(追尾機能付き)

また、アルミダイキャスト部品をプレス板金+樹脂部品に変更することなどにより34.4%の軽量化を、そして、省電力化に伴う回路基板の小型化などにより製品を38.9%小型化しました。

<sup>\*1</sup> 光の照度分布の不均衡をなくすこと  
<sup>\*2</sup> 天井高と直下照度を揃えた条件での他社一般品

### 年間CO<sub>2</sub>排出量



### 国内情報端末(スマートフォン)向けACアダプタ

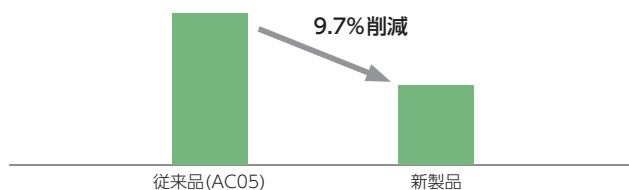
ミネベアミツミ製国内情報端末向けACアダプタは、従来品に対し内部構造/回路方式の見直しにより、小型/高容量/高効率化を実現しました。

1日3時間充電×21時間待機×1年(365日)での使用条件を想定した場合、CO<sub>2</sub>排出量は従来品より約9.7%削減します。



ACアダプタ

### 年間CO<sub>2</sub>排出量



## 今後の目標・課題

ミネベアミツミグループは、2019年度よりミネベアミツミグリーンプロダクツ制度を本格導入しました。社会の具体的なニーズを的確に察知するとともに、安全かつ省エネルギー、省資源、超寿命などに貢献する製品の開発に取り組んでいきます。



# ミネベアミツミグループCSRレポートを拝読して



株式会社日本政策投資銀行  
執行役員  
産業調査本部副本部長

## 竹ヶ原 啓介氏

ミネベアミツミグループCSRレポート2019について所見を述べるにあたり、まず評価の視点を決めることが必要と感じました。というのも、昨年度より貴社グループのアンニュアルレポートが統合報告に衣替えされ、価値創造シナリオやビジネスモデルの持続可能性など、もっぱら長期投資家に向けた非財務情報の開示媒体としての役割を担うようになったためです。非財務情報を一括りに考えるならば、CSRレポートを統合報告と一体化する選択肢もあり得たと思いますが、あえて独立した媒体として継続させた意図を汲み取り、その狙いが読者に伝わるかどうかを第三者の目から評価するのが、この頁の役割と考えます。

この観点から拝見すると、このレポートの主題が「人」であることに改めて気づかされます。社是である「五つの心得」の筆頭に「従業員が誇りを持てる会社でなければならない」を配するなど、もともと貴社には人的資本を重視する姿勢が顕著ですが、今号のトップコミットメントでは、この点が一層強調されています。「相合」によるシナジーを追求してグループの拡大が続く中、多様な背景を持つ従業員の間で基本的な価値観を共有する必要性が一段と高まったことが、今回、このレポートを独立させた背景にあることが分かります。つまり、このレポートはミネベアミツミグループの長期

的な成長を支える要素のうち、多様な人材が活躍できる風土づくりに焦点を絞ったものとして評価すべきものと考えられます。

今号でレポートの性格を端的に示しているのが、HOT TOPIC「ミネベアミツミグループの人材育成」と特集2「進化し続けるセブミツミ」です。前者は、さらなるグローバル展開を見据えた人材戦略を従業員の声と共に紹介しており、従業員が最も大切なステークホルダーであるというメッセージを強調する役割を果たしています。後者は、マテリアリティの特定で提示された重要テーマ「すべての従業員が力を最大限発揮できる環境づくり」の何たるかを具体的にを見せてくれる大変印象的なコンテンツです。特に、大学と連携したエンジニア育成のように、地域社会への貢献が、人を育てる地盤の強化を介して自社の強みにつながるというストーリーには大変説得力がありました。

今後、このレポートのユニークさをより鮮明にするためには、工夫すべき点もいくつかありそうです。特集1「サステナビリティに関するマテリアリティ」の位置づけや主題との関連性についてもう少し丁寧な解説があった方が良いでしょう。また、SDGsと関連づけることで長期的な視点が示唆される一方、中長期目標が2020年めどそのままになっている点や、後段のさまざまな取り組みの報告が前半部分と分断されてストーリー性に乏しい点などにも改善の余地があります。「人」を主題とする独自性に富んだレポートとしてさらなるレベルアップを期待したいと思います。

## 竹ヶ原 啓介氏

一橋大学法学部卒業後、日本開発銀行(現株式会社日本政策投資銀行)に入行。調査部や政策企画部、フランクフルト首席駐在員、環境・CSR部長等を経て、現職。その他、環境省「持続可能性を巡る課題を考慮した投資に関する検討会」委員、経済産業省「TCFDコンソーシアム企画委員会」委員、内閣府「地方創生SDGs金融調査研究会」委員、NEDO技術委員などを務める。

## 第三者意見をいただいて



常務理事  
サステナビリティ推進部門 CSR担当

## 松田 達夫

竹ヶ原様には本年度も貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございます。

ミネベアミツミグループCSRレポート2019では、当社の最も大切なステークホルダーである従業員の活躍と育成にフォーカスしました。

HOT TOPICSでは、多様な人材が活躍できる風土づくり、グローバル展開を見据えた当社グループの人材育成

を取り上げました。特集2では、セブミツミの現地に根付いた地域貢献と、マテリアリティ(重要課題)とした「すべての従業員が力を最大限発揮できる環境づくり」への取り組みを紹介しました。当社グループの「人」に対する想いを改めて高くご評価いただけたことに、感謝申し上げます。

また、特集1では、マテリアリティを今回初めて決定し、SDGsとの関連付けを行いました。ご指摘いただいた中長期的な目標設定とともに当社グループのCSR活動の進展状況をより分かりやすくお伝えしていくことが、今後の課題と考えています。

今後も、CSRレポートがすべてのステークホルダーの皆様にもミネベアミツミをご理解いただける有効なツールとなるよう「読みやすい、分かりやすい」レポートの発行に取り組んでまいります。



この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。



ミネベアミツミグループは、林野庁が推進する「木づかい運動」を応援しています。この冊子の制作には、国産木材が製紙原料として活用されています。国産材を積極的に活用することで、日本の森林が整備され、CO<sub>2</sub>の吸収量拡大に貢献します。

